

## エネルギー・環境の選択肢に関する福島県民の意見を聴く会 2012年8月1日水曜日

今日は147名の方にご来場いただいております。そして報道関係は45社。125の方がいらっしゃいます。参加を申し込まれた方の中で意見表明を希望された方の中から、無作為抽出で30名の方にご意見の表明を頂きます。今壇上には15人の方にお並びいただいております。前半後半で分けさせていただいて、後半でもう15人の方にご登壇いただきます。

### 「命を削って作らなきゃならないエネルギーなんておかしいでしょ！」 福島市

福島市の遠藤です。会社員です。今日の朝刊に、わたしは、荒川のほとりに住んでいるんですけれども、「福島市の荒川が日本一きれいな水に今年も選ばれました」という記事が載っていました。

水の中には山はだから流れて込んださまざまな放射性物質も入っているでしょうから、通常の基準で綺麗だというふうにも言われても、まったく嬉しくありませんし、今の福島の水がね、日本一きれいだと言われても、何の感動もないし、そういうものを今日のこの日に、まず朝刊で読まなきゃならなかったっていうのが、朝から非常に腹立たしかったですね。

私は、30年ほど前に双葉町で、原発の増設をめぐる公開ヒアリングがあった際に、公開ヒアリングというのはそもそも欺瞞であって、東電の社員とか、そういうのが潜り込んで、賛成意見しか述べない。あるいは、買収された地元の人達が賛成意見しか言えないようなそういう欺瞞的な場であるから、ヒアリングそのものが、ま、意味のないことであるという事で、会場の外から批判した側の人間です。

そういう形で、原発については昔からずっと反対の立場で関わってきました。そういう私が、今日は、名前は意見を聞く会ですけども、そういう場に、本来であれば単なる福島の、言ってみれば“ガス抜き”かと思えるようなそういう場で、こういう意見を表明するというのは果たしてどうなのかという思いは、複雑な思いはあるんですけども、ただ、やっぱり、福島に住む者として、最低限言いたいことというのは一人ひとりみんな腹に抱えていますし、私もせつかくの機会ですから、言えることは言っておきたいという思いがあって応募したわけです。

実際に起こってはならないことが起こった訳ですから、そういう中で私がここでこういう形でマイクを握っているという事も、ま、あり得るんだなというふうに思っています。

起こってはならないことが起こってしまった訳ですけども、私たちはいずれこういう事は起こり得るんじゃないかというものとして、警告を発してきた側の人間です。でも、あの事故を止めることができなかった。認識の甘さ、それから運動の取り組みの弱さ、いろんな事を反省しました。

でも事故を起こした人たちは「想定外」って言っていますよね。「起こらないはずだ」と思っていたんですよね、政府も東電も。でも起こったわけですよね。

一番反省しなければならない人は、私たちではなくて、事故を起こしたあなた達なんじゃないで

すか！ 一番反省しなければならない人が、事故が収束も何にもしていないのに、なんで再稼働なんですか！ 根本的に間違っていると思います！

言いたい事は沢山あったんですけども、もう1分前だというテロップが出ていますので、一言だけ言わせてもらいますけれども、原発再稼働の是非という中で、ストレステストとか、耐震設計だとか、津波対策だとかそう言ったことが言われていますけれども、その安全性も検証されていないのに、再稼働がなされているわけですけども、私が言いたいのは、原発っていうのは、事故がなくなるとしてそこで働く人は毎日被ばくするっていう事なんですよ。被曝なしにあり得ないエネルギーってあるんですか!?

原発はウラン燃料を採掘する時から生成して、そして、運転して。当然膨大な放射性廃棄物が出て、それを管理する。全部被ばく労働ですよ！ 被曝しなければ成り立たないエネルギーなんですよ！

そういう事実が今まで、みんな分かっている。原発で働いている人は白血病だとか癌で死んじゃうんだとか、そういうことをみんな常識として分かっているのに、でも数字上は40年間で死亡労災認定がね、たった10人ですよ！あり得ない話でしょ!!

こういう形で、原発の被ばく労働というのは、実態が隠されてきたし、で、それが今、収束作業のね、毎日2,000人3,000人という人が、とんでもない形で、またそういう事に従事させられている訳でしょ。

それでまた再稼働ですか！ あり得ないでしょ！ 命を削って仕事をしなければならない、それが前提のエネルギーって何なんですか!?! 15%だとか25%だとか、そういう数字の問題じゃないでしょ！

命を削ってやらなきゃならない、そうやって作らなきゃならないエネルギーなんておかしいでしょ！ 私が言いたい事はそういうことですよ。責任を取れない人がね、そういう事に責任を取れない人が、安易に再稼働とか言わないでください！

原発を安易に動かさないでください!! 責任が取れる人たちの手で、きちんと廃炉作業をしていかなければならないし、後世にねきちんと安全な形で残していかなければならない。私はそういうふうに思っています。分かりましたか！



### **「人類の生存を危険にさらした選択などあり得る筈がありません！」** 会津若松市在住

会津若松市から来ました Nihei と申します。えっと、職業も言えという事なので、私は現在無職です。年金で細々と生活しております。自他共に認める善良な市民であります。

先程大臣（細野）がおっしゃった、「福島県の聴取会は特別なんだ」という事を再三おっしゃいました。私は、福島県での今日の発言者の用紙を拝見すると、もう、圧倒的に「原発を無くしてくれ」という声が多いんですが、そういう声の、圧倒的な声の中に来られるんで、その覚悟でいらっしゃったと思うんですけども、ま、それで「何とか聞き終わった」と「これでよし」という事になっては大変困ります。

わたしも、これが政府の原発再開のアリバイ作りに利用されるのではないかという不安を内心持ちながら、参加させていただきました。

まず私は、発言のこの趣旨にある一部を訂正させていただきます。8番なんですが、「全国原発全てを速やかに廃炉にすべき」と書きましたが、これはですね、私はやはり、「全国全ての原発を直ちに廃炉にすべき」というふうに改めさせていただきます。

ま、理由なんかどうでもいいのかもしれませんが、あえて理由を言わせていただきますと、理由には私の原発に対する思いが込められていますんで、理由を言わせていただきます。

私自身会津若松に住んでおりました、原発事故が起きるまでは正直、不安を持っていましたけれども、原発のことを真剣に考えてきたか？と言われると、「そうではなかった」という反省があります。

それというのも、原発がある原発立地です、普通の生活を送っておられる方、それも沢山いらっしゃるんで、「さほど心配なことはないのかなあ」というふうに考えてきました。

ところが昨年原発事故が起きました。これは世界の原発政策を揺るがしかねないというか、揺るがす大事故だった訳ですよ。

結果的に自分は、結果的にですよ、傍観者にすぎなかったという事を反省させられ、大いに恥じた次第です。

原発事故は戦争と共通する一面があります。どちらも国策として推進され、私たち個人には選択する余地がありません。よく生活にはリスクが付きものだし、原発も同じという人もいます。しかし、たいていのリスクは意思によって避けることができます。

しかし一方、戦争や原発事故は否が応でも巻き込まれる。その点で決定的な違いがあります。第二次大戦中、命懸けで反戦を貫いた人々がいて、この人々が戦後日本の良心として内外の尊敬を集めたことを知りました。結果として、戦争に加担したことを多くの人々が反省した筈です。マスコミも例外ではありません。国策のイデオログとなった自らを反省したはずです。その事を考えた時、言論の自由、表現の自由が保証された今、わたしは「一字一句自分に正直でありたい」そう思ったことがですね、訂正の理由であります。

時間が後1分しかないようなので、急いで私のここで本当に言わんとする事を申し上げます。3

点考えてきました。

まず、第一は使用済み燃料の安全な処理方法もなく、いったん事故が起きれば人類の手に負えないことが明らかになった原発は、直ちに全て廃炉にすべきです。

「原発がなければ、経済の停滞や工場の海外流出による産業の空洞化を招く」というわけのわからない人もいますけれども、福島の実現は原発があったが故に起きた事であり、人類の生存を危険にさらした選択などあり得る筈がありません！

第二に、法治国家の常識として今回の大事故の責任の所在を明らかにすることです。必要な準備義務を怠った組織はもちろん、個人にも相応の処罰を下すべきです。事故の原因を作った東電、メーカー、施工業者、政府官僚、学会に対する国民の根深い不信は時間が経過すれば解消するというものではありません。

責任が曖昧なままでは、よくテレビで見るように深々と頭を下げて「申し訳ございませんでした」ということでは、同じ過ちが繰り返されるに違いないからです。さらに事故後次々と明らかになった情報隠しについても、関わった責任者をさかのぼって罰する。たとえば「情報を隠蔽して国民生活を危険にさらした罪」等の法律を作るべきです。

すみません、拍手で中断させられますのでまとめて下さいという事なので拍手の時間を頂いて最後述べさせていただきます。

第三には冒頭の政府説明にもあったように、原発からクリーンへというのであれば、選択肢三つのシナリオを並列的に置いて、あたかも「ゼロシナリオは難しいですよ」と言わんばかりのそういうやり方ではダメです。クリーンエネルギーをしっかりと柱に据えて、思想実現のために知恵を絞るのが原発事故で世界を震え上がらせた我が国の責務ではないでしょうか！ 世界はもはや脱原発へのとどめることができない大きな流れになっています。

以上私の意見を述べさせていただきましたが、原発を全廃してほしいのは大多数の、ま、100%とは言いませんけれども 99.8%ぐらいですか、の、福島県民の心底からの願いであることを強く、マスコミの皆様方には福島を見捨てることなく、報道していただきたい。この事をお願いして発言を終わります。



**「毎日毎日、原発事故で苦しんでいる国民が最優先なのではないですか？」** 原発北西 60km 福島市在住

私は不安を抱えたままの大地、原子力発電所北西 60km の福島市に住んでいる Anazawa といいます。エネルギー政策について原発ゼロを主張しています。避難している方に話を聴く機会が何度かありました。

年配の女性は「4世代で暮らしていたけれど、今は別々の避難所に暮らしているんだよ。戦争の時は横須賀の海軍工兵の事務員だった。戦争に負けると随分前から分かっていたんだよ。あの時と同じだ、国や東電は情報を隠している」と。

もう一人の女性は、「戦後大陸からやっとも思いで引き上げてきました。今度は原発で避難しました。また棄民にされた思いだ。もう力が抜けて出かけられない。国も東電も1000年に一度の震災を口実にするな！」という怒りの声でした。

県外に避難した方は、「まだ一度も家に帰宅していない。着るものは全て避難所で頂いたもの。避難していると報道を通してしか福島の記事が分からない。国民に福島の記事を報道で知らせて欲しい」という切実な声でした。

1年5ヵ月経った今、避難している人たちの現状はよくなったと思いますか？ 慣れない土地で、交通事故で命を落とした人、振り込め詐欺に狙われそうになった人、病気を悪化させた人と、深刻さを増しています。

避難している16万人の思いを受け止めずに、原発を廃炉にするための努力を惜しんで、豊かな森や豊かな海を元通りに戻さないで、放射性物質をそのままにしたまま、国は大飯原発を再稼働してしまいました。毎日毎日、原発事故で苦しんでいる国民が最優先なのではないですか？

原発の北西60kmの我が家の庭の芝生の放射線量は1.56マイクロシーベルトと高く、毎日が不安です。福島市の中では3番目に高い放射線の土地ですが、1番2番と高い順に除染しているため、我が町内は来年になるそうです。除染は思ったほど放射線量は落ちず、なかなか進みません。

近くの公園だけは除染が済みましたが、問題点もありました。公園の除染は除染した土を埋めるために掘った穴から水がしみ出ている、ポンプでくみ出して、長い時間かかっていました。そこにシートでくるんで埋めていました。放射能が地下水に溶けださないか心配です。放射性物質は目に見えないやっかいな危険物だと、つくづく思います。

私の隣の家は放射能の値が私のところよりも高いので、お孫さん達を県外に避難させました。そして庭の木を根本から切って除染しました。避難できない家庭では、運動をさせたいとき、放射線の低い場所に連れて行って遊ばせています。

先日、豊かな森で囲まれた、会津の喜多方市で開かれた自然エネルギーについて話し合う会に参加しました。

農業用水を使つての小水力発電や、猪苗代湖から水道の水を引いているので、その水圧を利用する発電をしたい。など、若者が発案をして、専門家がそれに助言をしていましたが、水利権の問題、水道と電気との二つの権利を取得するには自治体の承認がないと権利は受け付けられないといったことなど、解決に戸惑っていました。その間に大手の銀行や企業が、自然エネルギーの買い取り制度を

使って儲けてしまわないか、福島県は遅れをとってしまうのではないかと心配です。

地元の人達が自然エネルギーで電気が作りやすいように、政策を進めていていただきたいと思っています。



### 「命があつての経済であり、国民があつての国であり、逆はあり得ないと思います」 原発から 37km・田村市在住

私は田村市在住でございます。私の家は原発から 37km でございます。ここ一年、特段何も変わったような気配はございません。そもそも私の住んでいる地域は地震による影響はほとんどゼロに近いという事で、一番の問題は放射能の汚染という問題が何時までも現実的に、後精神的にまわりついているという事実でございます。

実は、私は今年で誕生日がくれば 51 歳。1961 年生まれでございます。生まれたその年、9 月 30 日双葉町、10 月 22 日大熊町の町議会で原発誘致の可決がされたと聞いております。設置の段階で少なくとも私たちの世代は、この原発について考える余地はなかったと。そして、10 年後、1971 年、1 号機が運転を開始し、それから 40 年後、見事に壊れてしまったということになります。

もの心ついた時にごく当たり前に原発は存在していたのです。つまり、この決断をしたのは誰か？ということなのですが、決断と結果責任を考えますと、誰もが当事者として全てに関わり責任を負う事、負わせることのむずかしさがここに 있습니다。だからこそ無責任な判断は許されないと 생각합니다。

当時の諸先輩方がご健在で、今日の状況を見て、「未来に恥じない選択であった」と胸を張れるとしたらば、私は考えを変えてもいいんですが、そんな事は絶対にあり得ない！今、我々の世代が、今、責任ある判断を求められていると思うのです。政府には今回の意見集約に基づいて、正しい判断を期待しております。

今回に限っては結論ありきという事は絶対にあってはなりませんし、言葉ではゼロベースからというお話ですが、まずは判断するその立場の方々の心を、まずはゼロベースにリセットしてもらいたいと思っております。

そこで、私は原発はそもそも必要ないと思います。私が社会にお役にたてる期間は限られていて、70 歳までとしても、あと 20 年しかございません。少なくとも私が生きている間に心休まる日が来ることを望んでおります。

現実的に考えて未来への問題の先送りはするべきではございません。その最大の問題は、核廃棄物の処理にあります。今の時点でも、いずれを選択しても原発は存在いたします。運転してもしなくてもリスクは存在します。

核廃棄物の処理はごく近い将来行き詰ります。いつ、どこに、誰の責任で、どのように処理し、数万年、数十万年に及ぶと言われるリスクをだれが責任を持って管理するのでしょうか？ その明確な国民的な議論もないままに、棚上げの状態でなし崩し的に稼働することは、責任ある行為では絶対にございませぬ。そして、今ここに、その福島の実況があります。

さて、長期的なエネルギー戦略として、原発は本当に必要なのでしょうか？ 今を生きる我々はいいところ取りだけをしていたのではないのでしょうか？ 安心安全は何を持って担保するのでしょうか？ 指揮者・政治家の言葉でしょうか？ 未来への技術革新の期待でしょうか？

国は「国民の生命と財産を守る義務を果たす」と、いつも何か交渉をするたびに言われるんですけど、それを果たして初めて私は国民として国を支える義務があつて、命があつての経済であり、国民があつての国であり、逆はあり得ないと思ひます。

ましてやそれを天秤にかけるなどという事は、絶対に許されぬのです。政府は、ま、最低でもこの 2030 年までの間に、短期的には、・・今原発を動かしていますけれども、今の原発の稼働を容認することになるのでしょうか？ その場合、安心安全は新しい枠組みの中で担保するといつておりますが、そうした場合、同じような過ちは起きないのでしょうか？ もし、同じような事故を繰り返した場合の補償の担保、責任の所在、どうするのでしょうか？ いまだに福島の事故の責任の所在は不明確でございます！

国民を担保に事業を拡大するような経済活動は全く理解に苦しみます。リスクが大きすぎて一般の保険会社が引き受けてのぬい原発のようなものそして特別ルールで巨大になつた産業は、資本主義経済の中で、いつの間にか重要なポジションにあることが、冷静に考えると、異様に映ります。

社会全体のリスクヘッジとしては誠にお粗末としか言へませぬ。核ごみの処理、事故リスクを考えると、安いエネルギーでもなさそうですし、いろいろ調べますと本来の目的は発電だけではなかつたような事を言われております。

3.11 は非常事態でした。今は異常事態です。そろそろ冷静に現実と向き合ふなければ未来は開かれないと思ひます。被害者も加害者も政治家も官僚もマスコミも学者も本音で真実を言わなければ異常事態は乗り切れないでしょう。

国民的議論にゆだねるように見えて、そうでもなさそうですし、責任ある人たちが判断すべきことなのではあるのですが、信用がおけない実況がここにございます。今は異常事態です。平時のシステムは役に立ちませぬ。原子力は入りませぬ。

今度特措法の中で 30 年以内に今回の震災、事故による放射性廃棄物などの県外での最終処分があるようですが、こんなのは現実的に可能なんではあるのでしょうか？ 皆さんは分かっている筈です。小手先の論理は何の解決にもなりません。

今、責任ある人達に聞きたいと思います。「未来への期待」と言えば聞こえはいいのですが、「問題の棚上げ」としか私には映りません。それは未来に禍根を残す結果になります。ここに今日の問題の本質が隠れていると思います。

福島に生きるという事はどういう事でしょうか？ 我々は放射性物質の二次的拡散を防ぐためには、腹をくくるしかないと思っております。

原発を受け入れたっていう事は、もしやするとその覚悟も求められたという事なのかもしれません。

未来への責任は今を預かるリーダーにその責任が果たせますか？ そして今日まで、無関心で容認してきた今を生きる私たちに覚悟はできているか、それも問われているのだと思います。今、長期的な視野に立って、未来への責任として正しい選択をしなければなりません。

改めて申し上げますが、私はその選択に原発は必要としません。これ、近江商人の言葉に「売りよし、買いよし、世間よし」という、「三方よし」という言葉があります。どの一角でも崩れたら商いとしては成り立ちません。今の原発がまさにそうでございます。

そして今回の事態について関係ある全ての政治家・役人に結果責任を私は聞きたいと思っております。

**司会**：え、申し訳ございません、そろそろお時間ですのでよろしくお願いいたします

はい、私はあなた方に白紙委任をしたわけではないのです。誰もが納得のいく成果を求めているのです。国民の期待に答えることのできない人は自らの意思で土俵から去っていただきたい。それが何よりも安心につながるものと思います。

それと、もう一度申し上げます。原発は今、存在しております。良し悪しは別として、放射性廃棄物の処理も確立していません。放射能は確実に封じ込める事が基本です。それさえできない現実がここにあります。問題の先送りは許されません。決められる政治というならば、今こそ未来に恥じない選択をしなければならないのです。おわりです。



### **「人生で3回も放射能の心配をしたくないと思っております」 長崎出身福島市内在住**

みなさんこんにちは。私は福島市内に住んでいます Nakano Setuo と申します。年齢は70。現在無職でございます。えっと、出身が長崎市でございます、3歳の時に原爆中心地から、3.6km のところで被爆をいたしました。

福島県にお世話になって、36年になるんでございますが、まさか、あの一、この地ですね、放

射能の心配をしなきゃあかんということになるとは、夢にも考えませんでした。

みなさんがいろいろとご意見を言うておられますので、言いたいことは山ほどあるんでございますが、重複してもなんですから、私の経験から来るところを申し上げたいと思います。おかげさんで被ばくいたしましたけれども、こうしてみなさんの前で意見を発表させていただくという事は、それだけ幸運だったろうと思っております。

実は私は自動車メーカーに37年勤務をいたしまして、そこで工場全体の設備管理って事を主体に従事いたしました。で、その経験からでございますが、原発をいろんな安全性の向上という事でいろいろと言われてはいますが、いくらですね、設備的に安全を図っていても、最終的に設備が安全に稼働出来るかどうかというのは、非常時が起きた時の人の判断でございます。これは適切にやるかやらないかで、ぜんぜん内容は変わってきます。

で、いま、労働災害をゼロにしようという事でみなさん非常に努力を頂いていますが、これはゼロにはなりません。これは何ですか？ というと、設備的に対応が取れても最終的には人の要素が残っているわけです。だからなかなかゼロにならないんですよ。設備の管理も同じ事でございます。で、原発ですね、いろんな津波対策をやる、地震対策をやる。

それからいろんな自動停止装置を完全なものにすると言ってもですね、異常が起きた場合は最終判断は人がやるんですね。それだけの人材がそろっているか？ という事だと思っております。

皆さんご存じと思いますが、東京電力の第一原発はですね、つまらんトラブルをやってきたんですよ。一つ二つ例に出しますとね、定期点検をやって、終わりにですね、工具を原子炉格納容器の中に忘れてきたとかね、それから一番大事な冷却水なんです、その水槽に枯れ葉が溜まってですね、それをポンプが吸い込んで、冷却水が一時停止したとかですね、そういったトラブルをやっているんですね。

これは私なんかの工場でメンテナンスに携わっていたりすれば、「何でこんな素人みたいなことをやるんだ」と、「これで原発はちゃんと運転できるんだろうか」という危惧がありました。で、まあ、結果的には大震災、津波の問題があった訳ですけども、そのところを本当にですね、総統するための人材が育っていたのか？ と言えるんじゃないかと思っております。それも含めて人為的災害というものだと思っております。

そういう観点から申し上げますと、これは、物が原発でございますから、工場の設備が止まって限定的な被害が出るんではありません。原発というものが事故を起こしますと、みなさんご承知のとおりでございますね。そういう事をいろいろ考えますとやはり原発は危険だなど。

それから先ほど誰かおっしゃいましたけれども、労働者がですね、要するに被ばく覚悟で勤務されていると。こういったことで本当に事業が成り立つんだろうか？ と考えますと、原発はですね、私は早い時期にやっぱり止めるべきだと思っております。

で、私は原子爆弾の被害に遭ったわけですが、これは戦争でございましてね、ある程度自分なりにしょうがなかったと思うんでございますけれど、この福島原発被害というのは、要するに国内の電力事業がもたらした事なんです。これが国民を非常に苦しめているんです。そういう事があってですね、決してこういう事は二度と起こしてはならない事なんです。

個人的に申しますと私はもう、この先あんまりありませんけれども、3回もですね、放射能の心配をしたくないと思っております。そういう意味で原発は可及的速やかに自然エネルギーにシフトしていくという事が大切じゃないかと思っております。

で、昨年の大震災で我々は自然の力というものが非常に大きいものだとしてね、再認識させられたわけでございます。この自然の力を最大限利用しない手はないわけですね。幸いにして日本はそういった技術力を十分備えていますから、先ほどお話しがありましたように、そここのところにお金を投じてね、そこをいかに早く立ち上げていくかという事にですね、政府は力を注いでいただきたいです。

それから、ま、あの一、国民もですね、そういった形で自然エネルギーが本当に立ち上がるようになれば、今回の東電の値上げみたいなですね、理屈に合わない値上げは別にしても、本当にリーズナブルな値上げであればですね、ある幅に於いては国民も納得してね、受けるんじゃないかと思うんです。そういう努力をやっぱりやっていただきたいなと思っております。

それから2030年のいろんな原発査定比率にはいろんな15%とか、20~25%とか出ておりますが、私は可及的使命と申しましたけれども、一つのステップとしてはですね、たとえば20年位にですね、5%~10%というものもあるんじゃないかと思うんです。そういった挑戦的な目標も掲げて、こういった議論をまとめていっていただきたいなと思っております。えー、そういった意味で時間はかかると思うんですが、8月末なんていう期限を決めた拙速的な進め方じゃなくてですね、じっくりご検討いただければと思います。

最後になりますが、あの一ま、これ細野大臣には申し訳ないですけども、原発比率が15%あたりがいいのではないとか、あるいは福島県選出の代議士がですね、40年にはゼロにしたいとか、そういうお話しがね、新聞報道で拝見するんでありますけれども、こういった、いま国民的な議論がなされている中でですね、こういう数字が出てくるというのはちょっと理解に苦しむと思うんです。いろんな事がありますけれども、先程の形を作るのがやっただというのもありましたが、結論ありきでなくてですね、この意見聴取会その他もね、十分生かしていただいて、その辺を踏まえた議論をぜひお願いしたいと思います。終わります。ありがとうございました。



## 「本当に将来にわたって子供たちの健康に影響はないのでしょうか!?」 福島小学校教員

福島で小学校の教員をしております Sawai と申します。震災現場の学校の様子とか子ども様子を話しながら私の意見。もちろん即刻原発廃止の意見ですが、その意見を述べていきたいと思いま

す。

私の勤務する学校は、震災後休校状態となりましたが、卒業式を行う予定であり、準備を進めていた矢先に原発事故による汚染が予想以上にひどいという事で、中止となってしまいました。その時以来卒業生には会っておりません。その後、入学式は予定通り行われましたが、1学期期間中は外での活動は一切できなくなってしまいました。

学習では理科の畑でのへちまやジャガイモの栽培も中止。米の収穫体験もできませんでした。体育も、体育館だけの実施で、子どもたちは思いっきり走ることはありませんでした。休み時間も教室に閉じ込めたままでした。また、暑い中プールにも入れず過ごしました。

そんな生活が4ヵ月間も続くと、子どもたちの中にはストレスが溜まり、イライラしてくる子どもが出てきました。その後、莫大な費用をかけ学校の除染は行われ、何とか校庭での活動はできるようになってきましたが、それでも時間制限つきでした。1学期に出来なかった運動会を何とかやりたいと思っても、親の不安を考えると外では行えず、体育館での実施となってしまいました。

そんな中で気がついてのですが、子どもたちの走りが大変ごちないなと感じました。今年の運動会は外でやったんですが、転ぶ子が大変多かったです。また、子どもが本来自然の中で学ぶべき物が学ばなかったことによる経験不足が大変心配です。子どもには学ぶべき時期というものがあります。学ぶべき時に学ばなかったことは大変おおきなことなのだと思います。

子どもにとってこの1年5ヵ月は、大人の1年5ヵ月に比べ大きな比重を占めており、大変重要な時期だった筈です。このように子どもたちにも大きな犠牲を強いた原発事故を深く反省し、即座に廃炉していただくことを望みます。また、これからの子どもたちへの健康被害も大変心配です。ガラスバッチによる放射能の積算量や、ホールボディカウンターによる内部被ばく検査、甲状腺検査も行われました。

でも、学校に於いてこのようなことが行われるのは、とても異常なことです。病院のレントゲン室と同じくらいの放射線管理区域内で生活し続けている今の私たちも異常であります。

新聞報道では、何%の子どもの尿にセシウムが検出されたとか、甲状腺に異常のある子どもが何%みられた、という記事が載っていることがあります。必ずそのあとには「健康には影響ありません」とのコメントが付いています。

本当に将来にわたって子どもたちの健康に影響はないのでしょうか！ 全くゼロとは言い切れないのではないのでしょうか？

私たちは外で教育活動をさせている時に、放射線量を気にしながら、線量計で測定をして行うようになってしまいました。「私たちは将来の子どもたちの健康に責任が持てるのか」、「今この活動をさせて大丈夫なのか」と、大変不安であります。

原発再稼働を決定してしまった人達は、いつまで続くか分からないこの不安の中で暮らしている私たちの、この心情を考えたことがあるのでしょうか？ 学校では総合的な学習の時間に、さまざまな事を子どもたちが主体となって、広く探求していきます。その中には環境の問題も含まれています。

今まで原発の危険性についてはほとんど触れずに、二酸化炭素を排出しないクリーンなエネルギーで、安全対策も十分してあり大丈夫だと言ってきたはずの原発が、この福島の豊かな環境を取り返しのつかない状態にしたのです。子どもたちに環境の事を考えさせる際に、この事実から目をそむけるわけにはいかないのです。

今後も原発を推進していくべきだと論じる人達は、この福島の状況を子どもたちにどう説明するつもりなんですか？ 想定外の事であったからではすまされない問題です。

文科省が出した放射線副読本。ここにあるような、本当に放射線の危険性をまるで軽視した内容は、到底納得できるようなものではありません。事故後の処理も思うように進まない。その処分方法や処分地も決まっていない。核廃棄物を大量に出し続ける原発がクリーンなエネルギーであるとは、到底子どもたちには教えることはできません。

エネルギー政策の大転換を図る以外に、子どもたちにこの状況は説明はできないのではないのでしょうか。これだけ大きな犠牲を払って何も変わらないのでは済まされません。子どもたちに語りかける時に、福島原発の事故により原発の不完全さが明らかになり、これ以上原発に頼ったエネルギー政策は私たちの生活を不安の中に置いたままである。

原発から再生可能エネルギーに方向転換をし、日本全体でこの再生可能エネルギーの開発を進めていくために、知識や技術を集中させていけば必ずできるはずであると語りかけていくべきなのだと思います。その事により、新しい産業や雇用も出てくるはずで、肝心なのは、高い目標を持って取り組んでいく、その姿勢だと思います。今まで原子力政策にかけてきた予算や、政府の情熱を再生可能エネルギーの確立に使うべきではないのでしょうか。

最後に子どもたちにも教えています。「間違いを犯したならば素直に反省し、改めるべきである」今こそ子供たちに大人の潔さを教えていくべきだと思います。私の意見発表を終わります。ありがとうございました。



### 「今の私たちなら正しい選択ができるんだから・・・」 伊達市在住

伊達市からまいりました Haga と申します。0%を選択します。選択肢が三つしかないからこのシナリオを選択します。でも、思いは一日でも早く全ての原発を廃炉にして、事故があってもなくても増え続ける汚染物質をどうしたらいいかとか、被曝してしまった人、被ばくし続けている人の健康をどうやって守るか、もちろん再生可能の自然エネルギーそれをもっと開発し足り、技術を発展

したり、そういう事を本当に全てのエネルギー、全ての英知を結集して欲しいって思っています。

ほんと、こんなね、つたない言葉で、多くの方がもっと専門的にいっぱい言っているのに、なんでわざわざ、こんなところに気後れしながら来たかっていうと、あの・・・こういう思いをいくら署名を沢山集めても、霞が関に抗議行動に何回行っても、ああ、伝わってなかったんだなあって、そんな思いで、で、こういう場を設定していただいたんだから、こういうところできちんとお話しすれば伝わるんじゃないかなって、あの、気を取り直してやってきました。

私にとっては、いま何をどんな選択をしても、本当に手遅れなんです。今もまだまだ苦しい生活をしています。それでも、「この苦しみをね、他の地域の人に広げちゃいけない」とか、「これからの世代の人に広げたくない」とか思っています。そういう選択を、今の私たちならできるんだから、正しい選択をしたいって思います。

私は自然豊かな福島が気に入って、25年前に移り住んだんです。今住んでいるところは10年位になるんですけど、とても荒れた土地だったんですけど、山の落ち葉をいっぱい敷き込んで、鶏飼って鶏糞いれて、それで、すごく安全でおいしい野菜とか果物が採れるようになったんです。本当に幸せな私の緑の楽園だったんです。

で、オマケもあったんです。あの、クロマドボタルって皆さんご存知でしょうか？　すごくしつとりとした里山に、ひっそりと生息している、飛ばないホタルなんです。5月から10月まで観察できるんです。そんなに長い間光っているんです。でも、すごく地味だから、地元の人さえ気がつかなかったんです。

で、私とそのホタルと一緒に暮らしていたし、そのホタルも環境を守っていたんだなあって、すごく幸せな、本当に日々を過ごしていました。ところが今度すぐ近くに仮置き場ができます。放射性物質がそういうものにどういう影響があるのか私には全然わかりません。でも、何十代というトラックが何百回もそこを往復したら、多分もう、そのホタルはいなくなると思います。

私にとっては本当にダブルパンチなんです。緑の楽園は子どもにも孫にも残せないし、でも、皆さんにこういう事をね、自分が失って、「こんなに失ったんだ、辛いんだ」って言いに来たんじゃないんです。

私たちは確かにこんなに多くのものを失ったのに、こういう事を読むとね、「原発のコストってものすごく安い」って書いてあるんです。それがすごく不思議だっていうのを実感しました。

わたしは、正しい選択をしたいと思うんですね。で、私は知識がなかったり、誤解していたりするのかもしれない。そしたら、正しい選択ができないから、こういう普通の人にも正しい選択ができるようにね、こういう資料って、もっと、すごく分かりやすく書いて欲しいなって思います。

他にもいっぱい、これは読めば読むほど、国際貢献？　環境の国際貢献って何なんだろう！　って。こんなに沢山の放射性物質を世界に振り撒いちゃって、しかも原発本体まで輸出するって、こ

れのどこが国際貢献なんだろう？ とか、本当に疑問がいっぱい、いっぱい出てきちゃったんです。

本当はそんな単純なね、私の誤解かもしれない。そういうことをね、まず、こういう資料を作った方に、もっと分かりやすくね、そういう事が分かるように正しい選択が出来るように、しっかりと作ってもらいたいなって思います。

私たちは本当に、いろんな準備ができてきたと思うんです、国民はね。良い選択をしたいなって思っているから、あの、本当に政府のみなさんにね、それを上手に導いて行ってほしいなって、本当に心から願っています。

こんなにつたない言葉で本当に恥ずかしかったんですけど、でも、こういう機会を与えていただいた事は、本当にみなさんに感謝します。ありがとうございました。おしまいです。



### 「私たち福島県人は国民ではないのでしょうか？」 福島市在住穴澤さん

わたくしは福島市に住んでおります穴澤と申します。わたくしは「0%を望む」という事で、ネットでクリックしたんですが、この福島市で開催されているのは広く県民の声を聴く会だというふうに聞いております。ただ、先程もありましたように、「広く福島県民の声を聴いた」それをアライバイ工作にして欲しくありません。

先程別な方も申しましたが、私たちは異常な状態の中で日々生活をしております。街の中を見ていただくと、あちらこちらにモニタリングポストがあります。そして天気予報の中に必ず、「本日の放射線量・文部科学省発表」ということで、かならず入ってまいります。

そんな土地に住んでいる私たちは正常な生活をしていると言えるのでしょうか？ 事故から1年以上が経過しても十分な補償もないし、除染もしっかりされておられません。そういったものがすべて個人の責任にされております。国が責任を持って除染をすればいいと言いつつ、全然進んでいないというのが実情じゃないのでしょうか？

国の所在が明らかにされない中で、原発の再稼働、原発の依存云々は全くの論外です。住み慣れた土地を追われ、仕事を奪われ、家族を分断して戻ることもかなわない人たちが沢山います。小さな子どもを抱えた親は、子どもの低線量被ばくと健康被害に怯えています。そんな中で、生存権も保証されていないような中で、私たちは日々を送っています。

私は、原発反対を唱えると、すぐに「経済を知らない」とか、「自分の主張だけを一方的に申し述べている」とか、「自給率の低いエネルギーの対策をどうするのか」とか、「感情論だ」、あるいは「安全保障をどう考えるんだ」というふうに、すぐにつっこまれます。でも私は怖いんです。本当に怖いんです。

私は54基が国内の中で稼働しているという事は知っていました。でも国が「安全」と言っているものを疑う理由は全くありませんでした。私は福島市ですから、浜通りからは離れたところに住んでいますが、正直言って、危険性も安全性も全てに無頓着でした。

ところが今回このような震災の結果、地震であるとか、津波であるとか、原因は云々されておりますが、現実には多くの県民が被ばくをしました。十分な説明もないままに全て自己責任で逃れて、全て自己責任で避難し、生活をしなければいけない、そういう状況を作り出した政府の責任をきちんとしなければいけないというふうにおもいます。

1年と4ヶ月経ちましたが、私の中には悲しいことが沢山ありました。例えば昨年12月、「原発事故の収束宣言」。こんなのはあり得ないことです！なにをもって収束というのか！そして続けて政府は言います。「世界最高水準の安全をつくる」これは私たちの犠牲の上に成り立たなければならぬものなのではないのでしょうか？

そして大飯原発の再稼働に至っては、「国民の生活を守るため」と野田さんはいいました。私たち福島県人は国民ではないのでしょうか？ 私たちはもう、棄民としか言いようがありません。何度も何度も国に捨てられているというふうには感じて、政府の報道を聞くたびに悲しくなっていました。

人々が何故、毎週金曜日あれほどの4月以降途切れることなく官邸に集まってくるのか、代々木公園や明治公園をあれほどの人々が埋めつくすのか、考えてほしいと思います。それは反原発の流れに動いた熱病でも流行でもありません。それは本当に人々の心からの叫びだと思っています。

本当に私は怖くてたまりません。私には娘が二人おりますが、ここで生活をさせて、子どもを産ませて、ずっとここに置いていものなのかどうか、親として切実に考えます。後で子供に「すまなかった」というような生活が私を待っているのかと思うと、すごくこれも悲しくなってしまう。

私がゼロというふうに申し上げたのは、増え続ける核のゴミを、原発を稼働し続けることでますます増えていく、その高レベルの放射性廃棄物の処理も出来ないままに原発の稼働などあり得るのかという事です。この廃棄物が増えるという事は、私たちが子孫に残していくお荷物が増えるという事です。

私は去年の6月に、福島市にありますフォーラムという映画館で、あのフィンランドのドキュメント映画を見ました。10万年後の安全という映画でした。大臣はご覧になりましたか？ その中で、ヨーロッパでは核が安全なものになるまでには10万年。アメリカでは100万年かかると言われております。フィンランドでは4基を廃炉にして、地下深くにこの放射線廃棄物を埋めるという事を、国家プロジェクトとしてやっています。それをオンカロプロジェクトと言いますが、その10万年超に及ぶ使用済み核燃料の保管を管理する。日本も原発を稼働させない、止めることになれば同じような問題が生じては来ますが、フィンランドの地下処分場の入口にある看板に書かれていることを読みあげて私の発表にします。

ここは 21 世紀に処分された放射性廃棄物の埋蔵場所です。安全なところに保管する必要があります。決して入らないでください。放射性物質は危険です。透明で匂いもありません。絶対に触れないでください。地上に戻って我々より良い世界をつくってほしい。近づかなければ安全です。幸運を。



**「一度事故が起こってしまえば、原状回復は不可能です。ならば原発ゼロから議論を始めるべきではないでしょうか」 双葉郡富岡町（避難者）**

Watanabe Kazunori と申します。住所は福島県双葉郡富岡町というところにあります。今もご存じのとおり警戒区域に指定されていますので、家にも帰ることも、そして職場にも、故郷にも帰ることもできないまま避難生活を続けています。

まず私が今回ここで意見表明をしたいと思ったきっかけですけれども、先月同じ意見表明の方で、「福島原発事故の放射能で直接的な影響で亡くなった人は一人もいない」という発言をメディアで聞いて怒りを覚えたというのが一つのきっかけです。

私も原発事故の避難者の一人ですから、避難者の状況はよく分かっているつもりです。どれほど多くの方が避難中に亡くなったか、避難後に亡くなったか、そして今もバタバタと倒れて亡くなっているか・・・本当にあんなに元気な人が、あんなに笑顔だった人が・・・という、信じられないくらい多くの方が無くなったり、病に倒れたりしている情報を聞かされています。

本当に悲しい思いを日々しています。そして、借り上げ住宅や仮設住宅、そして一時帰宅の際でも将来を悲観して自ら命を絶つ人も後を絶ちません。本当に、本来であれば失わなくても良かった命ももっとももっと長く生きていけた命が失われているという事をまず申し上げたいと思います。

無理もないと思います。ある日、原発避難者は本当にある日突然何の説明もなく避難をさせられ、故郷を追われ、そして明日にでも帰れるだろうと、すぐに帰れるだろうと思って避難したんですね。ところがいまだに、故郷にも、家にも実家にも帰れなく、家族バラバラなまま生活している。そして何時帰れるかもわからない状況で今過ごしています。そういった状況の声が全然届いていないというのが、本当に日々思うところでございます。

思えば、原発事故が昨年あって、私たちもこれで「大変なことが起こってしまった」と思ったはずなんです。私も避難所を転々として、そして関東の妹の小さなアパートに家族で避難して身を寄せ合いながらテレビ画面を見て「大変なことが起こってしまった」と、「もう、帰れないんじゃないか」もう、自分の人生をすべて否定されたような、そんな思いを抱きましたし、両親も泣いていました。

そして、「もう日本も終わってしまうんじゃないか」と思った方も多いと思います。また、これによってここから日本は大きく変わって行くだろうと歴史の転換期になって行くだろうと誰もが

思ったはずなんです。気付かされたはずなんです。

ところが…どうでしょうか？ もう何事もなかったように、結論ありきで全てが進められているような気がします。原発被害者に対しても風化をさせられるような形で進められています。

がれきの処理も決まってないし、燃料の処理の仕方も決まってない。そして原子炉建屋の内部の状況さえいまだ正確に分からない状況であるにもかかわらず、何故か、結論ありきで原発の再稼働がされて、また、区域の再編等がされています。

今回のエネルギー政策の聴取会についても、原発を失えば経済的に本当に切迫してしまうという結論ありきで、進められているように感じました。

原発事故の賠償の費用であるとか、除染の費用を考えれば、はるかに経済的負担を強いるのは原発推進の方だと思います。そして確実に核のゴミを、10 万年後も本当に長い未来に残してしまう。

我々の本当に子どもの孫の孫の孫の孫の孫のその先まで、本当に人類があるかどうか分からない時代にまで核のゴミを残してしまうという現実がありますし、事故が一度起きてしまえば、福島原発を見ればわかるように原状回復というのは全くできない。

福島全体を見てもらえばわかると思いますけれども、本当にみなさん健康被害におびえ、そして家族もバラバラにされて、そして軋轢も生じています。一度事故が起こってしまえば、原状回復は不可能だという事をお分かりだと思います。

であるならばやはり、原発ゼロから議論を始めるべきではないでしょうか。まずそこから、原発ゼロからなじめて、そこに向かって何ができるのか、どういった方策があるのかという事を議論すべきではないでしょうか。これは世界中が注目している選択だと思いますし、歴史が注目している選択だと思います。

そして、いろいろと、代替エネルギーの問題とか、雇用の問題とか、ハードルはあると思いますけれども、我々日本人の科学、技術、英知を結集してそこに向かっていけば必ず成し遂げられると信じています。今日私は原発避難者の一人として、そして、福島県人の一人として、そして、人類の歴史のほんの一部として、発言させていただいたつもりです。ご静聴ありがとうございました。



**「総理！ どじょうに戻って下さい！泥をかぶって下さい！ どうか、どうか、どうか全ての原発を廃炉にして下さい!!」 富岡町・福島市に避難中**

富岡町から福島市に避難している Nakano と言います。私はゼロシナリオと言いますか、「全ての原発を早く廃炉にして欲しい」という立場で意見を述べさせていただきます。

今年の夏は一段と暑い夏です。しかし、昨年の東京電力の計画停電がウソのように今年は静かです。もちろん日本全体で大変な努力をして節電をしていることや、電力会社の節電への協力願いがあってのことだと思います。ネットで調べてみたのですが、昨日の暑いさなかでも各電力会社の電力使用量は軒並み 90% 台以下でした。原発を再稼働する必要はないように思います。

それなのにどうして政府は関西電力の大飯原発を再稼働したのでしょうか？ しかも、「次は高浜原発を」の発言も出ています。こうして次々に再稼働を許すのでしょうか？

報道によると枝野さんは高浜再稼働に対して不快感を表したとありましたが、「原子力規制委員会の発足を待たないで」、という趣旨に発言もされていたと思います。では、大飯原発の再稼働は何だったんでしょう？ 矛盾していませんか？ 原子力規制委員会ができれば原発は安全なんでしょうか？

そうではないと思います。地震列島の日本で、どんな想定外の大地震や大津波がきても壊れない原発なら安全と言えるでしょう。しかし、そんな原発、今の日本にあるでしょうか？ ないと思います。今すぐ全て廃炉にするべきです。

ドイツは福島事故後いち早く原発廃止を打ち出しています。それなのに当事国の日本がどうしてできないのでしょうか？ 決死の覚悟で事故処理に当たった方々、今も作業している方々、そして今でも郷里に帰れず、やりきれない思いで不本意な避難生活を余儀なくされている何万人もの人たちに報いるためにも、福島と同じ過ちを 2 度と起してはならないと思います。

事故を起こした日本。世界で唯一被爆国の日本が、世界に先駆けて脱原発宣言をするべきだったのではないのでしょうか。心の底から原発がクリーンで安全なエネルギーだなどと思っている人が、いまの日本にいると思えません。少なくとも福島県民には居ないと信じます。

作られた安全神話はとっくに崩壊しているのです。引き取り方もなく、ただ水槽につけて放射能の発生を押さえるだけの使用済み核燃料棒が、各原発に一体いくらあるんですか？ どう処理するんですか？ 老朽化する各地の原発をどうするんですか？ 脱原発への舵取りをする絶好の機会なのではないですか？ 福島原発の廃炉に 30 年から 40 年もかかるというのに、今後も稼働させる原発は廃炉に 50 年も 60 年もかけるつもりですか？ 何年先の子孫にまでツケを回すつもりですか？ 野田総理、再稼働の決断をした政府主要のあなたたちは、50 年 60 年後の責任を取れるんですか？

先を見越して消費税の値上げをされた野田さんが、原発がもたらす負の遺産を見越せないとは思えません。あなたは先の読める人です。今や日本各地で毎週金曜日に行われているデモ、参加者の心からの叫びもお届いているのだと思います。

総理！ どじょうに戻って下さい。泥をかぶって下さい。どうか、どうか、どうか全ての原発を廃炉にして下さい。安全でクリーンなエネルギーの開発を進めて下さい。そのために多少電気料金が高くなっても私たちは我慢できると思います。心からお願いいたします。



## 「原発事故は人間が人間らしく生きることを否定するもの 一人ひとりの当たり前の生活、人生を破壊してしまうもの」 渡利在住

Nogi と申します。福島市の渡利に住んでいます。渡利は花見山などで知られる自然の美しい地域です。しかしこの地域が放射線量の高い地域として有名にされてしまった事に、強い憤りと悔しさを感じています。

私の選択はゼロシナリオとしました。しかし今回示されたゼロシナリオを指示している訳ではありません。私の意見は「原発ゼロを直ちに決断すべきだ」という意見です。原発事故を体験している者として、原発ゼロ以外の選択肢はあり得ないのです。

理由は様々ありますが、最大の理由は原発事故が取り返しのつかない事態をもたらしているからです。原発と命は共存できません。私は二人の大学生を育てています。子どもたちは多くは語りませんが、生まれ育った福島にこのまま住んでいいのか、福島で結婚をし、子育てをしていっていいのか、そういう深いところで悩んでいます。

喜ぶべき人生の節目に於いて、未来を担う若者たちにこうした不安や苦しみを抱かせてしまっていること、「こういう政治や社会でよいのか」という事が正面から問われていると思っています。

私の周りにも子どもさんの寝顔を見ながら、本当に福島で育てて良いのか、涙を流すお父さん、お母さんが沢山いらっしゃいます。子どもを守るためと自主避難をし、離れ離れで暮らす家族も限界を迎えています。

先日仮設住宅に行きました。「すぐに避難しなければならなかったのに、救える命も救えなかった」と自分を攻め立てる方。避難先で夫を亡くされ、「原発事故さえなければもっと長生きしていたはず」と涙ぐむ方。荒れ地を開墾し苦勞して子どもを育て、ようやく楽ができると思ったら、その全てを一瞬で無くされてしまった無念さを語る方など、沢山の方に出会いました。

私はこうした話を聞くたびに、原発事故は人間が人間らしく生きることを否定するもの、一人ひとりの当たり前の生活、そして人生を破壊してしまうものだと強く感じています。人間の尊厳、人間らしく生きるという事はどんな理由があっても侵してはいけないし、最優先で守らなければならないのではないのでしょうか。

こうした県民の思いや苦しみを背景に、福島県は原子力に依存しない脱原発の県土作りを進める「福島県復興計画」を決定します。また、福島県議会は福島原発 10 基すべての廃炉を求める決議を全会一致で採択しています。

脱原発、原発ゼロは、福島県民の総意となっています。そしてこの方向は単に福島県の将来というだけではなく、「原発事故による数々の犠牲の上に福島県民が全国に発信をした日本の進むべき道」

と言ってもいいのではないかと考えています。今日は細野大臣もみえられています。福島県民の総意は明らかなんです。この福島県民の意思を是非重く受け止めていただいて、原発ゼロの決断を直ちに進めていただきたいと強く求めるものです。

最後に、私たちには今希望が必要です。安心して子供を生み育て、安心して暮らす、安心して働ける、そんな当たり前の生活を1日も早く取り戻すための希望です。その最低限の前提は、現在の福島原発事故を本当の意味で収束させること。そして、原発を無くし、事故の不安から解放をする事だと思っています。

昨年12月の「福島原発の事故は終わった」という、野田首相の事故収束宣言。今年6月の、「福島と同じような地震津波が襲っても安全は確保される」と断言した、これもまた野田首相の大飯原発再稼働の発言。また、先の意見聴取会での「福島原発事故で亡くなった人は一人もいなかった」などの発言の一つ一つが、私たち福島県民を深く傷つけています。希望を萎えさせています。それは福島県民の思いや実態と全くかけ離れているからです。

福島原発事故の原因を人災と認め、安全神話と根本から決別し、原発ゼロの決断を行う事を重ねて求めて意見表明にしたいと思います。ありがとうございました。



### **「原発事故で被害に遭った子供たちにこれ以上負の遺産は残せません」** 福島市・小学校 教員

福島市に住んでおりますSetoです。小学校の教員をしております。私もできるだけ早く原発が無くなるといいなと思って意見を述べさせていただきます。今回の福島の聴取会はさっき細野大臣もおっしゃったとお趣旨が違うという事なので、私も子どもたちの現状を少しお話をしたいと思います。

今でも福島県から県外に避難している18歳未満の子どもは約2万人います。特に福島原発事故による避難者は自分の住んでいた場所に帰れず、いまだに不安な日々を送っています、今日も参加している方の中にいらっしゃるようですが。

昨年私が担任した子どもたちの中にも、双葉郡から原発事故で避難してきた子どもがいました。その子どもは、子どもなんですけど「もう自分が住んでいたところには帰れない」って分かっていました。私はそんな事を言ったつもりはないんですが、「もう帰れないんだ」という思いを本当に子ども心でもうちゃんと、こう、わかっている、本当に原発事故が、「この子たち本当に地元でどんな活躍をするのかな」そういう将来でさえも、本当に奪ってしまった。未来、子どもたちの未来を本当に奪ったひどい事故だったという事をもう一度認識しなければいけないと考えているところで

また、福島に住む子供たちは、毎日放射線による被ばくをし続けています。学校の校地内の除染

は、先程の方もお話ししていましたが、昨年進められたので、現在 0.1 から 0.2 マイクロシーベルト毎時ぐらいに下がって、校庭での活動がある程度できるようになりました。しかし、保護者や子供たちの中には今でも、「外での活動はやりたくない」「出て運動するのは嫌だ」というふうな意思表示をしている方もいます。

当然だと思います。通常よりは高いんですから。で、ましてや子供たちが通学している道路や側溝の除染は進まない状況で、高いところでは、昨日もちょっと他の学校の方に聞いたら、「いや、実は 100  $\mu$  シーベルトあった所もあったんだよ」というのを聞いてすごく驚きました。

普通の「はかる君」とかでは測れなかったから、ちょっと今までは測らなかったというところがあったようです。その他にも森や、山や、そういうところは全く手を付けていない状態です。学校の線量を下げただけでは、子供たちの被ばくは止められないというのが今の現状です。

このような状況の中で原発の安全性を訴えて、大飯原発の再稼働を踏み切った政府には、本当に福島県民として憤りを感じます。福島県では原発の安全性に疑問を持つ人が沢山いたにもかかわらず、原発関連の雇用の確保や国や、東電からの自治体への交付金など、ま、原発を受け入れてきてしまった結果があります。

30年と言われていた耐用年数もいつのまにか40年になって、プルサーマルまで引き受けてしまいました。で、こういう安全対策がしっかりと行われなかった結果が、3.11の大地震の後の原発事故です。政府の事故調査委員会でも報告があった通り、福島原発の事故は人災です。

しかし先程前半の方の話の中にもありましたが、名古屋市でのこの会の中で、「福島原発事故での直接的な影響で死亡した人はいない」という発言を聞き、本当に福島県民の気持ち、そして原発事故で避難した人々の気持ちを全く考えていない内容だなというふうに、本当に怒りを感じました。

双葉郡の沿岸では、原発事故のために津波被害者を助けることができなかったと言われています。病院からの搬送途中に亡くなった入院患者の方もいます。そして避難生活を苦に自殺してしまった人もいます。避難者が体調を崩し亡くなった例も数多くいると報告されていることは、これらの亡くなった方達は原発事故で亡くなったことになるのではないですか！ 本当にあの発言はきちんと謝罪してほしいというふうに考えているところです。もう絶対に謝ってほしいなというふうに思います。

大飯原発の再稼働に対しても、大飯の地域の人達は「反対したくても原発が再稼働しないと生活ができないんだ」というふうにインタビューに答えている人もいました。2030年のゼロシナリオ実現のためには、原発立地地域での原発関連以外の雇用の確保や交付金のあり方など、受け入れてしまった地域が、原発以外でも生活できるような基盤作りが必要ではないでしょうか。

再生可能エネルギーの開発やそれに繋がる施設の維持管理など、新しい産業や雇用を生み、原発に頼らない地域作りとなる筈です。最後に使用済み核燃料サイクルの事なんですが、先程来皆さん本当に核のごみの事についてもお話をされていますが、このサイクルシステムは破たんしてしまっ

ていますよね。で、今原子力発電から出ているものは全て核のゴミです。

ロンドンオリンピックが今開催されていますが、出場しているサッカーの選手が練習したであろう檜葉や広野のJビレッジも、今は第一原発の事故処理に向かう作業員の人達の中継基地として機能していますし、放射性廃棄物の集積場にもなっています。すごくお金を投じて作ったんですが、そんなものはもう、全然…もう芝生ものび放題というのを、今日はちょっとインターネットの画像でも見てみました。

原発を稼働する限り核のゴミは出続けます。置くところもなく、処理もできない。本当に負の遺産でしかないわけです。原発事故で被害に遭った子供たちにこれ以上、負の遺産は残せません。

私たち大人が決断するのは、原発に頼らないエネルギー政策の大きな転換です。2030年まで待たずに原子力による発電をゼロにする事は子どもたちの未来に責任を持つことだと思います。

福島県でも地熱発電や風力発電の研究や実施が進められています。新築の学校にはソーラーパネルが設置されていたりということもあります。原発事故後の福島県の現状をしっかりと受け止めていただいて、再生可能エネルギーの開発に日本の技術力を全て投入して、みんな考えていきたいなというふうに思っています。

これで私の意見表明を終わらせていただきます。ありがとうございました。



## 「こんな故郷を失った悔しさ、わかりますか？ あなたたちに！」 原発から8キロ弱浪江町からの避難者

先程富岡町からの避難者が二人いましたが、私も原発から8キロ弱の浪江町で専業農家として暮らしていました、Matuda Takasi と言います。現在は6ヵ所の移転先、郡町の仮設住宅で、浪江町民と一緒に頑張って……ま頑張るというよりも踏ん張って暮らしています。

うまく私の思いが伝えられるか分かりませんが、今回発言の機会を頂き本当にありがとうございます。浪江町の町民の一人として、郡仮設住宅の代表として、口下手ですので文面を書きましたのでそれを読ませていただきます。

早速ですけれども、今回現実に原発事故が起き、国や政府そして東京電力のお粗末な事故対応を現実に十分見させていただきました。原発事故以降震災前のような議事録には、国や政府が津波災害の可能性を知らながら何の対策もしないで、東京電力の言うなりにまかせ、災害に遭い、事故が起きてしまいました。

先程も何人かの人が言いましたが、テロ、自然災害に想定外はあり得ないと思います。東京電力では自ら想定外と言っていましたが、要するに事故を想定しなかったという事は、法律用語でこれ

は「密室の行為」ですよね。事業者として失格だと思います。

自ら原子炉の制御もできず、我々避難者に対する対応も満足にできない様を見て、国や政府・東京電力には原子力発電所を稼働する資格や能力はないと思います！ 原発は即刻廃炉。これは当然だと思います。

もう二度と私たちのような、故郷を追われてさまよう避難者は出さないでください。何で私がここにいなくちゃいけないんですか、私は口下手でしゃべれないんですけど、こういうふうにならざるを得なくなったのは東電のせいかもしれませんけど私たちの気持ちを理解してください！ もし今度同じような事故が起きたら、もう日本列島の終わりだと思います。

私たち福島では東京電力の電気は使っていないんです。どうしても電気が足りないならば、国会で原子力発電所を作って発電して使って下さい！ そうすれば、送電設備もいらなくて半分で済むんですよ、経費も。

自分らが自然を壊して、私たちをいじめて、都会の人はぬくぬくと暮らしているのはちょっとおかしいと思いませんか!? 私は原発事故から1年5ヵ月経ってますけれども、まだ一歩も前に進んでいません。

震災前は浪江町でお米を作りながら、東京電力じゃありませんけれども、安全で安心な美味しいコメを作って全国に送っていました。儲からなかったけれども、毎日毎日汗水流して農作業に明け暮れていたんです。けれども今度の原発事故で、もう浪江町では農業はできません。

何気なく暮らしていた故郷浪江町、あの山、あの川は、あの海、あの土地で、あの人たちと海や魚や山菜、新鮮な野菜など、全てが匂を味わえたふるさと浪江町。先祖代々の土地を守り生きてきた人生の生きざま。これから後世に伝えるべき過去や未来も全て失い、先も見えず町民もみんなバラバラになってしまいました。

こんな故郷を失った悔しさ、わかりますか？ あなたたちに！ できる事なら元に戻して下さい。故郷を返してほしい。それが我々避難者の切なる願いです。ただ放射能をゼロにしても無駄です。放射能が何ベクレル以下だから住めって、住めないじゃないですか。

あと、文部科学省などの官僚の人達や政治家にお願いがあります。まさか自分で住めない所に避難解除はしないと思いますので、今回避難解除準備区域として戻ってもいいという場所で、官僚の人達も仕事を行い、自分の家族と一緒に生活をして、私たちに見せて下さい！

当たり前だと思いますよ、「なんベクレルだから帰れ」って言ったって、金が惜しいから言っているのかもしれないけど、私たちに、住んでみて見せて下さい！ 国会も避難解除準備区域でして下さい！ そうすればくだらない国民不在の政策論争なんかしないで、速やかに審議は進むと思います。私たちの理解も得られると思います。安全なところで、「安全だ」なんて口先だけの事は言わないでください。

後、最後になります。先程反対と言っていましたが、今回の将来のエネルギー環境影響政策に関する国民からの意見聴取会、こんな、11カ所で部分的にやっても、本当に俄か実績作りだと思えます。本当にアリバイ作りっていうか、一度原発事故が起きてしまえば、日本全体の問題だと思うんですよ。

私は、先ほど反対してましたけれど、国民投票で国民に真意を問うべきだと思います。ただ今回の国の政策、政府、東電のお粗末な事故対応それを国民は見ていますので、結果はおのずと分かると思いますが。ご清聴ありがとうございました。



### **「それでも原発を推進しようとするならば、この福島に、この世界中にばらまかれた放射性物質を、一粒残らず片付けてください」 須賀川町（原発から約 65 キロ）**

「ゼロシナリオ以前に即刻原発全部稼働をやめ、廃炉にしてください」

今日はこの意見を聞いていただくために応募して当選いたしました。まるで宝くじに当たったように、仲間からは「おめでとう」と言われました。私は原発から約 65 キロの須賀川町に住む有馬克子と言います。中学一年生から 27 歳までの 5 人の子供を持つ農家の嫁です。今日も農作業をちょっとしてきました。

14 年前に持続可能な生き方を実践するために、穀物菜食の小さなレストランをはじめ、ようやく我が家の食材をベースに、ほぼ自給自足が形になってきたところでした。

開業以前から仲間たちと食の安全と環境問題に注意を向けてきました。特に原発は「いつかどこかでまた大きな事故を起こすか」と心配していましたが、まさかこんなに近くで起こってしまうとは思ってもみませんでした。自分自身何処か遠い他人事のように思っていた部分があると、今は本当に反省しています。

だからこそ、原発から卒業するため、高官庁への申し入れや署名集め、デモや集会、出来るだけのことをやってきました。私たちの声を、政治を動かしているみなさんの”心”に届けなければ、ずっとそう思ってきました。今日のこの機会を本当に感謝しています。聴いてくださっているみなさんもうありがとうございます。

もう前から言われていますが、本当に発掘する採掘される燃料のウランがオーストラリアやアメリカの先住民の人々を被曝させ、従事する人を被曝させ、原発で電気を得るために、この先もどれほど犠牲になればいいのでしょうか。

仲間が言いました。「福島で事故があつて、最悪の状況ではあるけれど、これで原発は止まるね」。それなのに、もう再稼働です。おそらくこのままでは子供たちも私たちも、みなさんも犠牲になる

でしょう。静かに静かに忍び寄ってくると思います。もちろんそうならないために、私たちは何とかして子どもたちを、家族を、仲間を守っていきたくと思っています。

今も使用済み核燃料の行き場も、処分の方法も先送りで、このまま原発を続ければ危険も費用もかさむのは目に見えていて、いずれ私たちにさらに重くのしかかってくるでしょう。昨年5月23日は、文科省に申し入れにも行きました。福島からは小さなお子さんも含め、70～80人がバスで文科省に乗り入れ、全国からも数千人が文科省を人間の輪で包囲しました。

その時私たちは再三、文科大臣に面会を申し入れてきましたが、高木文科大臣はとうとう姿を現しませんでした。屋根もない石畳で、途中小雨が降る中、私たちの必死の申し入れにもかかわらず、学校へ通う子供たちの年間20ミリシーベルトを撤回していただくことさえ出来ませんでした。

何故、学校をつかさどる文科省が、子どもたちの安全を最優先で動けないのか？ 私には今も納得できません。文科省の建物の内部には、文科大臣室のレプリカとか、給食の変遷とか、時代ごとの教室の様子とか、いろんな展示がありますが、その中で一番お金がかかっているような展示は、原発の安全性を強調する展示でした。

福島の事故の収束宣言は本当ですか？ 原因についても責任についても、政府も電力会社も原子力安全委員会も「さらに詳しい調査を」と言いながら、責任のなすり合いを延々と続けているばかりではありませんか？

健康被害が出ないように、せめて定期的な保養や学童疎開などが、最優先で国の指導で行われてもよいはずなのに、国会を見ていると政党や派閥争いばかりで、なかなか建設的な進展がありません。裁判を起こさないと、その裁判ですら負けてしまうんですが、子どもたちの命を優先することはできないのでしょうか？

今多くの子どもたちが避難や保養ができてるのは、自力か、民間の温かい心のある支援者さん達のおかげであって、まだまだほんの一部しかできていません。大飯原発を再稼働する時に、首相は「私が責任を取る」と豪語しましたが、東電の原発事故で誰が責任を取ってくれましたか？ ただ辞めた位では責任を取ったことにはなりません！ 潔く原子力発電をやめていくことでしか、本当の意味で責任を取ったことになりません！ 私はそう思っています。皆さんもそう思っていますね。(大歓声)

税金がつき込まれているというのに、電気代も上がっているというのに、東電の社員に地方の民間企業ではあり得ない程のボーナスが出ていて、本当は私たちにどうに知らされる筈のことが、後からあとから出てくるんです。

私たちの不信感はさらに募っています。何度も繰り返される「直ちに影響はない」ということばが、「長期にわたって影響がある」という意味の言葉だという事をいまではほとんどの人が気が付いています。

本当に大丈夫かどうかは5年、10年、もっと経たないと証明されたことにはなりません！ それまでは、本当の安全など断言してはならないのではないのでしょうか!? それでも原発を推進しようとするならば、この福島に、この世界中にばらまかれた放射性物質を、一粒残らず片付けてください。

事故が起きても簡単に後片付けができる技術も確立しないまま、決め手となる使用済み核燃料の処理方法もないまま、命を最優先させる気持ちもないまま、原発を稼働させるという事は本当にやってはいけない事なんです。

原子力規制委員会に、今まで事故の責任を取るべき様な人達が、推進してきた人たちが入っていますね。そういう事も許せません。このままその人たちが人事で決まってしまうと、「5年間罷免も出来ない」という事を聞いてビックリしました。それが通ってしまうなんて許せません、本当に！

私たちは原発に「今まで本当にごくろうさま」と言って永続可能なエネルギーにすぐにでもシフトして、調和のとれた心豊かな暮らしを新たに築いていくことが出来ると信じています。

一人の福島県民として、一人の日本国民として、一人の母親として、一人の人間として、原発そのものを即刻止めるように心から求めます。これが私からの意見です。ありがとうございます。



### **「日本というのは、どうして間違いに気づいても「ごめんなさい、間違っていました」って言えない社会なんでしょう」 相馬市**

相馬市から来ました。この場で意見を述べさせていただく機会を頂いて、ありがとうございます。原子力発電によって福島は数え切れないほどの甚大な被害を受けています。まず、先祖代々受け継いできた土地。豊かな自然、そこからも恵みの数々。特に相馬の美味しい魚。震災後それらはすべて失われました。

日々の食事による内部被ばくや外部被ばくに怯えた生活を余儀なくされています。基本的な普通の田舎の暮らしができません。ま、特に田舎の暮らしがそんなに好きなわけではないんですが、たまに都会にも遊びに行きます。

原発周辺の土地はいまだに戻ることもできず、そこに暮らしていた人々は仮設住宅、県内外と避難生活を余儀なくされているのが現実です。チェルノブイリを見ても明らかのように、飯館村と同じくらいの汚染地域には、25年経った今も住むことができません。

本当に除染をして住める、あの山いっぱいのところに住めるというのであれば、政府の方々はじめ、東電の人たちに住んでほしいと思います。この人々の生活を脅かす原子力発電は、すぐに止めて欲しいです。

政府はじめ電力関係者は「想定外の津波による被害でこのような事故が起こった」と、再三にわたって言っております。「津波対策をすれば大丈夫」というウソを振り撒き、安全対策も不十分なまま大飯原発の再稼働に踏み切ってしまったよね。

もう啞然としてしまいます。どれほど脳みそがメルトダウンしているのでしょうか。原発を全て止めたからと言って、今までに生み出された放射性廃棄物は膨大な量です。そんな事は分かっています。ですがもう、止めにしましょう。

プルトニウムなどは無毒化するのに十万年や百万年といった、長い年月がかかると言われています。百万年後の人類に、そんなゴミを残していいのでしょうか？

まったく自分に責任が無いと言っている訳ではありませんが、やはりやめた方がいいと思います。始めた当初は、「ま、そのうち処理方法が解明するだろう」という甘い見通しのもとに、いわゆるトイレのないマンションですか？ その原発を大量に造ってきたわけです。

地下 300m に高レベル廃棄物を地層処理するという方法も、日本学術学会、いわゆる学者の政府みたいなものですが、その方達の発表では、地震の多い日本では、今回の震災も踏まえると無理だという結論に達しています。

さらに原発が一番コストがかからないというウソは、もうバレています。騙されません。立命館大学の島教授が証明されています。プルトニウムが原発で使われるまでにウランを採掘し、輸出し、それを濃縮して使えるようにし、使用後は長年にわたって管理しなければいけない危険なものです。そんなところで作業しなければならない人々は、被ばくによって人権を脅かされています。

さらに事故が起きればこれだけ莫大な賠償費用がかかっているんですよ。100 万 kW の原発は 3 分の 1 は電気を生み出すけれども、3 分の 2 は海水を温めて、ただ捨てているだけですよ。みなさんそんな事はご存じのはずです。

揚水発電もご存知ですか？ 私も原発事故があって勉強したんですけれども、夜中に発電所が止められないので、その無駄な電気を使って水をダムの上にあげるんですよ。で、日中必要な時に流す。それで発電している。これ実際、計算をしてみると電気を使っているらしいですね。発電ではないらしいです。ガスや石炭の方がどれだけ安いか、もうそんなのみんなも知ってるぜ。

さらにドイツではこの震災により、原発の危険性を理解して、全ての原発の停止を決定していますよね。日本はまだ福島第一が収束もしていないのに、燃料の今の状態も把握しないで、冷温停止状態?? へっ！ 笑っちゃいますよね。冷温停止状態って何ですか？

スリーマイルでもそうです。7 年後に原子炉の中の状態が分かっていると言います。福島第一は、メルトスルーして、メルトアウトしちゃっていますよ。そんなのみなさん分かっていると思います。

日本というのは、どうして間違いに気づいても「ごめんなさい、間違っていました」って言えな

い社会なんでしょう。ドイツでは太陽光発電で20基分も発電しちゃっているって、知っていますか？  
こんなことも日本のメディアは大々的に取り上げないし、まあ、電力会社のお金が動いているから、  
そんなに大っぴらに言えないのかもしれませんが、まあ、全部が全部電力マネーで動いている訳  
ではないと思いますが、やはり人間としての尊厳、人としての誇り、そういったことを期待したい  
と思います。

今こそやっぱり変わるべきではないでしょうか？ ま、とにかくこれ以上原発に頼る発電方法は  
止めにして、クリーンなエネルギーを作っていっていただきたいと思います。

すみません、オーバーしていますが、先程、副読本の話も出ましたが、原発事故後に副読本が出  
版されております。教育現場に配布されていると思うんですが、細野大臣はご存知でしょうか？ 中  
身はひどいものです！ 福島のこの現実なんて全く書いてありません。放射能の測り方？ 遠ざか  
れば安全？ バカじゃないですか。周りにいっぱいあるんですよ！ どうやって避けるんですか？  
教えて下さいよ。

私の友人を含めて、福島大学の有志の方が「原発に関する副読本」を作っています。興味のある  
方は見ていただければと思います。

長くなりましたが、これで意見表明を終わりにしたいと思います。2030年を待たずに、私のレジ  
メには書いてありませんが、即刻原発を止めて廃炉にしていっていただきたいと思います。ご清聴あり  
がとうございました。



## **「あなた達を殺そうなんて思っていやしません！ 殺したって、何にも問題解決にはな らないんです！」 福島市**

福島市に住む Shiina と申します。13年間、この間まで宮城県で自給的生活をやっておりました。  
そこでかすかなお金と、自分で食べ物を作って、薪で食事を作って風呂に入って、ま、低コストと  
いうか、そういった生活をしてきました。民宿もしていましたので、少しだけのお金、でも幸せで  
した。それが3・11、根こそぎやられました。

孫たちも来なくなりました。外国の研修生も来なくなりました。自分の思いも回せなくなりました。  
食事さえ作れなくなりました。無念でなりませんでした。ですから怒りを持って、そしてまた、  
3・11のその問題に肉迫できず、社会的、政治的なエネルギー問題に迫られなかった自分を、も  
う一度見直してみようと思って、福島市に、あえて線量の高い福島市に来て、いろんな思いで生活  
をしています。

で、今日の駅前のコムコムという子どもたちの施設があるんですが、1m位の高さなんですが、  
その線量は先ほど見てきたら0.58マイクロシーベルトでした。十分な高さです。人は居てはならな  
い福島市なんです！ そこで今このようにして、次世代のエネルギー問題を、環境を語らなければ

ならないこの事態。もうここで、私は胸がはちきれそうです。

人が居てはならない所に、先程も子どもたちはマスクもかけずに嬉々として歩いていました。何時もそういう姿を見て「逃げて」と思うんですが、その言葉は出せません。そこで問題は済まないからです。

そういう中で今このエネルギー問題です。どういうことなのでしょう、今更ながらと思います。こうした、こうした討論を、原発やエネルギー問題をどうしてもっと早くやれなかったんでしょうか。何時も後出しですね。いつもこんなです。

もっともっと前に、原発は何故造るのかということ、もっと国民的総意のもとに、国民的議論のもとにすべきでした。・・いや、しない方がもちろんいいですよ。してはならないことなんですけれども、順序が逆です。

こうして、もうのっぴきならない事態に於いて、まるで放射能の戦争の中に子どもを生け贄にしておいて、多くの犠牲を払わざるを得ないこの過酷な中に、そうして初めてやっと議論ですか？ いっぱい場を重ねていくんですか？ どれだけ時間を重ねるんですか？

そして今日来てみれば、何でしょう！ まるで空港のように、ああして「危険物はないか」、まるで私たち一人ひとりがテロの、そうした人間のように扱いを受けて、私は屈辱を受けました。

本当にこれが国民的合意の上に「これから考えるぞ」「真剣にやるぞ」とそういうことであれば、胸を張って…何もあんなこと必要ないじゃないですか！ どうしてあんなことが必要なんですか！ あり得ません！ ああいう事自体が、何かこの会場の会の裏側を物語っているように思えてなりません、私は。もっと堂々とやって下さいよ！

私たちは共に何とかしようと思ってやっている訳なんです。あなた達を殺そうなんて思っていやしません！ 殺したって、何にも問題解決にはならないんです！ 同じ命を持つ者の立場として、何とかしようじゃありませんか。原発はそういう問題でしょうが！ まずそういう事をお伝えします。

そして私はいろいろ学びました。この原発が何故この福島に用意されたかということは、単なるエネルギー問題じゃないという事を学びました。政治的、経済的、分かりやすいから言いますが、1%の利権の上に立って、それも日本だけではなく、アメリカという国の1%の方々の、方々というか、その人たちの意思によって、そうして刻々と密かにもう準備されていた。その構造に立って戦争へ向かう核が入った、そうした原発だっていうじゃありませんか。

私の勉強が間違っているかどうかは分かりません。たとえばこういう問題にも、この次の議論では話題にあげて下さい。「何故原発を作ったか」という事を、もっともっと国民に知らせて下さい。全て隠されて進むのではなくて、いろんな事実をあげて下さい。何故原発が用意されたのか？ そして、また尚、この事態に於いても再稼働を進めるのか？ もっともっと国民的に、ちゃんと本当

のことを教えて下さい。

そしてもうひとつ言います。背広を脱いできて下さい。子どもたちを連れてきて下さい。肩書を脱いできて下さい。生身の人間として話合しましょうよ！ 命とはそういう問題です。

原発も、環境もエネルギー問題も、総合的な問題です。もっと裸になって、もっと切羽詰まった気持ちで議論しましょうよ！ 何回も何回もしましょうよ！

それでも刻々と被ばくしている中입니다。そうした深刻な問題であることを、私はもっと感じてほしいと思います。お願いします。



## 「子どもがいません。生まれる命もありません。村はどうなってしまうんでしょうか？」 大森地区

福島市の大森地区に住んでいる Kobari Tadasu といいます。半世紀前は髪もふさふさとした青年だったんですが、今はこういうような状態です。今この場所に立たせていただいている事、個人の意見を発表させていただくことに大変感謝しております、ありがとうございます。

原発事故当初は、私は一時孫娘を連れて県外に避難した苦い経験を持っています。現在私の家は、小さな庭なんですけれども、平常時 0.5 マイクロシーベルトです。庭の隅の方ですね、雨水がたまるような、ちょっと苔が生えるようなところは 1.5 マイクロシーベルトあります。非常に高い数値だと思います。

それでは私の考えを述べさせていただきます。私の考えは原子力発電は 2030 年を待たずして、大飯原発の発電所以外は再稼働はゼロだと思います。将来的に原発はゼロでいいと思います。

その理由として、原発は 100%安全か？ という事です。これは大変疑問に思います。最近特に心配している南海地震、関東地震、それに伴う大地震。原子力発電所の真下にある発電所(活断層?) は疑われていますが、全国にある老朽化した原子力発電所の設計は、構造的、環境的において、本当に安全なんでしょうか？ 耐え得る建築物なんでしょうか？

第二に使用済み核燃料の問題です。六ヶ所村の再処理工場は 97 年完成の予定が、技術的問題で、もう 18 回も延期されております。核燃料の使用済み保管はすでに 1,900 トンを超えまして、保管能力はもう限界の状態になっております。高速増殖炉の事故。プルサーマル計画の行き詰まりと、問題は山積です。

第三に使用済み核燃料の最終処分方法。どうするか？ って言うことですね。それと、最終処分場ですね。これもまだ決まっていません。おそらく日本で引き受けるところはあるとは思えません。

第四に、ひとたび原発事故が起きると、いまの福島を見て下さい。町、村、部落、人々、家族、みんなバラバラです。1年4ヵ月経っても復興の兆しは全く見えません。除染も進んでいません。除染の効果も期待したほどではありません。

最近の調査で学校が再開される状態になっていますが、「元の学校に戻らない」という生徒が70%を超えています。そういうアンケートの結果です。

子どもが戻らなければ、町村に子どもがいません。村はどうなるのでしょうか？ 子どもがいません。生まれる命もありません。村はどうなってしまうのでしょうか？

福島で、ウクライナの女性医師のエフゲーニャ・ステパノワという医師の講演会を聞きました。その時最後にですね、低放射線量被ばく。「これはずっと長い年月を見て注意しなければならない」と何度も何度もおっしゃっていました。

最近のNHKスペシャル報道によりますと、チェルノブイリ原発近くにある町の検査センター、アレクセイ医師の資料報告によると、事故後25年以上たっていますけれども、25年間の累積被ばく量15ミリシーベルトから27ミリシーベルトを被ばくした人の調査によりますと、心臓病、白血病、血管の病気が増加しているということです。

ウクライナの内分泌代謝研究所のバレリ・テレシェンコ医師。この方はヨウ素の被ばくによる甲状腺がんを、いち早く論文で発表した方です。この方が最近、なぜか30歳代の人に甲状腺がんが増加しているという発表です。

ヨウ素はもう既に消滅しているはずですが。30歳ということは、ウクライナの原発事故当時、10歳前後の人々です。この方々に甲状腺がんが大変発生しているということです。そのことを懸念しております。

以上の理由で、私は原発は2030年を待たずして早い時期にゼロにするべきです。では、原発で補っていた不足分をどうするか？ ということですが、第一に風力発電、陸上発電といろいろな方法があります。陸上の風力発電型は、もう既に福島県の布引山高原で実用化されております。現在6万5,900kWの電力を生み出しています。海上型は海に浮かぶ発電所。将来的に原発1基分相当の100万kWの発電が可能なプロジェクトが、すでに始まろうとしていることです。

第二に太陽光発電。被災地の農地、灌漑を活かした大規模ソーラー発電。ビームダウン式太陽発電の組み合わせ等で原発1基分の発電をするということです。

司会：申し訳ございません。そろそろおまとめに入っていただけますか。

はい。第三に水力発電。じゃあ、簡単に言います。水力発電、地熱発電、バイオマス発電と、これらの発電を組み合わせですね、日本人の高い技術と優れた能力を持ってすれば、原発不足による発電は十分可能だと思います。

この方法を、政府がいかに方向転換して、原発を廃止するかという決断だと思います。今まで政府はですね、何回も、薬害事件、公害事件でいろいろ問題を起こして、いまだに完全に終結していませんね。そういった過ちを何度も何度も繰り返しました。今度もこの原発事故でそういった過ちを犯して、後々30年、40年、100年後までも、未来の子どもたちに問題を残さないでください。前の過ちを学習してください。

私が言いたいのは、原発をゼロにして、孫、孫、孫、その孫の時代に安心して生活ができるような世の中にしてください。以上、私の考えです。ありがとうございます。



### **「今回の原発の事故も、反対派の人たちの意見を無視して全く見ないことによって起こったので、反対派の意見もちゃんと直視していくことは絶対に必要」 福島市大学生**

福島市に住んでいます Baba と申します。大学生で 20 歳になります。まず、ちょっと思ったことがあるんですけども、この紙を見せていただいたときに、すごくいい紙を使っているなということを感じまして。僕が高校生のころは、たぶん予算の関係だと思うんですけども、消しゴムで何回も消していたら破れてしまうような紙を使っていたので、ちょっと環境のことを考えると、こういう小さいところから経費削減とかはできるんじゃないかなと感じました。

では、すみません、本題に移らせていただきます。僕は原発については、できるかぎり早期に早くしていったほうが良いと考えている人間であります。

ただ、前提としてあるのが、一人一人の意見が尊重されることが絶対必要であると思いますし、今、こういう事故が起こって、原発反対っていう運動が起こっている中で、原発を残していこうという選択をする人たちはもう「敵だ」とみなされていると思うんですけども、実際に原発をなくすことにも、当然リスクはあると思いますし、実際、今回の原発の事故が起こったのも、そういう反対派の人たちの意見を無視して、全く見ないことによって起こったので、そういう反対派の意見もちゃんと直視していくことは絶対に必要だと思います。

反対派の意見を押しつぶしてしまうと、また同じような過ちを犯すのではないのでしょうか。

ただ、やっぱり感情としては、やっぱり廃止していくということが必要だと思います。放射性廃棄物の問題もありますし、やっぱり何かあったときに、一番リスクが高いと思うのが、僕にとっては原子力発電だと思うからです。

えーっと、きょうは本当にこのような会を開いていただいたんですけども、見たところ、結構空席があって、予想以上に世間の関心は低いのか、皆さんの事情で来られなかったのか、どうなのかよく分からないんですけども、ちょっとそこはすごく残念だというふうに思いました。

それで、僕はべつに原発を進めたいわけではないんですけれども、正しい選択をできるように知識豊富な方々が知識を提供していただくことも必要ですし、僕たち自身も自ら知識を得ようと努力していくことも大事だと思いますし、そういった中で、全員が正しい方向に向かって行けたらいいなと思っております。

で、目標を決めることは絶対に大事なことでありますので、どういう選択をとるにしても目標を決めて、それを実行できるように、政府、そして国民が全体となって進めていく必要があると思います。

繰り返しになってしまいますけど、やはり反対派の意見というのも大事だと思うので、そこは同じ過ちを犯さないようにしていただけたらと思います。

ちょっと緊張して、考えていたことが飛んでしまったんですけども。少し短いですが、ここで意見表明を終わらせていただきます。本日はこのような機会を頂いてありがとうございました。



## **「おびえながらずっとこれから生きていかななくてはならない現実、原発が動いてる限りこの国のどこに住んでいても起き得る事実なんです」 西白河郡矢吹町**

西白河郡矢吹町から参りました Yasui Takahiro と申します。仕事はシステムエンジニアをしております。いまでも、今年の3月から町会議員のほうもさせていただいています。

私は、この3つしかないシナリオの中からですね、ゼロシナリオを選択しました。しかし、2030年にゼロということではないんです。すぐにでもゼロにするべきであると考えています。なぜならば、今まで皆さんがおっしゃった理由そのものからです。

昨年の東日本の大震災をきっかけに起きたこの福島第一原発の事故で、絶対安全だって言われてきた原子力発電所がメルトダウンをして、いまだに詳しい原子炉の状態や、どの部分がどのように壊れたかという、メカニズムさえ明らかになっていない中、どうして原発を動かし続けることができるのか私には理解できません。

過大な電力需要の見積もりによる電力不足を理由にして、この再稼働を強行した福井県の大飯原発の地下にはF6という破碎帯が近くの活断層と一緒に連動して地表がずれるということも指摘されてますし、これだけじゃないですよ。石川県の志賀原発の原子炉建屋の直下にも活断層の存在が指摘されています。このように地震国である日本に原発を立地する場所はどこにも無いのではありませんか。

再処理施設でさえそうですね。保管場所もどこにも無い。最終処分場もどこにも無い。これで原発を動かし続けるなんてことは到底許されません。

こうしてる中でも、これをお話してる中でもですよ、住み慣れた故郷を離れて帰ることもできず、暑くて狭い仮設住宅の中で、生きがいも仕事も奪われて過ごしてる方がたくさんいるんです。

これは、きょうの朝メールで、この会場に来るからといって託された思いです。再び原発事故が起これば、このように行き場の無い方が大勢生まれるのを分かっているながら、原発に依存し続けることは私には本当に理解できません。

「ほかにもたくさんリスクがある中、原発だけのリスクを問題にするのはおかしい」と言った方が他の公聴会にいらっしゃいましたけれども、一瞬にして何十万人もの人の命が脅かされる。今まで育んできた生活、自由も奪われる。こんな不安にもね、おびえながらずっとこれから生きていかなくてはならない現実、原発が動いてる限り、この国のどこに住んでいても起き得る事実なんです。このようなことは福島で最後にしていただきたいと思っています。

「地震による原発のリスクを最小化する」ということがここに書かれてましたけども、そうであれば現時点で全ての原発を廃炉にする決断をするべきであると私は考えます。

国家戦略室のシナリオについて少し意見を述べさせていただきます。まず、なぜ2030年の選択肢しかないのか？ということに疑問があります。2030年というのは原発の40年間という運転制限。前は30年だったのが40年になってますけども、この40年の運転制限は全ての原発が迎える年だからであって、そこには「新規の原発の建設はあきらめるが、今ある原発を止める気は無い」という意図が表れてるんじゃないでしょうか。

もっと言えば、「動かせる原発を廃炉にしまえば、原発を廃炉にすると決めた途端に原発の資産価値が無くなり、電力会社が債務超過になる。そして経営が立ち行かなくなる恐れがある」これはニュースでも報道されてますから、ご存じかと思います。

こういうことから、電力会社を倒産させないために、国民の安全を無視してでも2030年までに原発を動かしたいということじゃないかということ。こういった意図が隠されたまま2030年の原発依存をみんなで考えましょうということは、果たして本当に国民的議論と言えるのでしょうか。

国政を預かる方が何よりも優先すべきなのは国民の生命であり、これを無視して一企業の存在を優先するなど言語道断です。だからといって、電力会社で働く方の生活、これを無視しろと言ってるわけでもありません。そこにも国民の生命という重い課題があるからです。

そのため再生可能エネルギーへの転換などで、雇用や安全なエネルギーを確保していくといった視点でのシナリオの提示も国民的議論の場には必要なのではないでしょうか。

あと1分ということですが、もうちょっとかかります。申し訳ありません。

先ほど省エネの家電の話も出ました。発電電力量は、どのシナリオを見ても2010年と比較してあまり変わらないじゃないですか。省エネ家電や照明機器を導入したら、もっともったこの発電電力

量は少なくて済むんじゃないでしょうか。

家庭での省エネルギーをやれば、原発依存にしようがゼロにしようが、この発電量は必要な量が減るはずなんです。

LED電球の価格は3年前1個8,000円ぐらいしましたよね。でも、今は800円で売ってますよ。40ワットの消費電力が4ワットのもの、これは10分の1の価格になって消費電力も10分の1。

計算してみました。ちょうど大飯原発の建設費が発表されて、本当はもっとかかっているんじゃないかなと思いますけども、それと同じ値段だけ使ってこの800円の電球を買って配れば、ちょうど発電量と同じだけ節電することができます。

地デジの負担では、地デジを導入した時には国民に負担を押し付けたんですよ、まだ使えるテレビをやめましょうといって。だけど、省エネすると負担が増えるという理論が私には到底理解できません。

あと暖房にしてもそうですね。暖房って、そもそも熱エネルギーですよ。これを遠くの発電所でつくった電気エネルギーを、わざわざ送電のロスをしてまで遠くから運んできて、また家庭のほうで電気を熱に変換する。こんなこともやめましょう。これが本当にこのシナリオに表現されてるんでしょうか。そういうふうには見えません。

それから太陽光発電の問題でもそうですが、地方では1軒で300坪ぐらいの広さの家って結構あるんですよ。ですから全国の家庭の屋根の上に太陽光パネルを乗けても、まだ電気が足りないよというのはちょっとおかしいんですよ。

農地法の規制とかで遊休農地とかもありますけども、これが十分に活用できない現状、こういった規制も緩和する。それから屋根の上じゃなくても、庭にも設置できるようにする。こういったことで太陽光発電だって十分賄えるようになると思います。

こういったことをぜひ考えてですね、ゼロシナリオということで国民への負担のデメリットばかり強調していますけども、そういったことをきちんと含めたシナリオの提示を改めてお願いしたいと思います。

そしてですね、最後にこれだけ言いたいんですけども、今のような、この国が主体の意見公聴会では中立性が確保できないんです。

原子力規制庁でも、技術的知見が必要だからといって、そのトップに今まで原子力を推進してきた中枢にいた方が就かれるようですね、トップのほうに。これにも問題があります。公正な第三者による機関をつくって、正しい情報を提供・共有することが不可欠なんです。そこに携わる有識者・専門家は、政府および原子力を推進している団体とは利害関係の無い中立な立場の人選をすることしか公正な議論はなし得ません。このような機関を設置して、国民的議論を十分に尽くす。

最終的にはイタリアなどで行われた、先ほど否定されてた方もおりましたが、国民投票のような手段によって原発の廃炉と再生エネルギーへの転換を国民が直接選択できるようにすることを提起して、私の意見表明とさせていただきます。ありがとうございました。



**「それとも次の事故が起きるまで国民は侮辱され続けるのでしょうか？」** 福島市会社員  
(仙台市聴取会 1 番の方の意見あり)

福島市から来ました Satou といいます。会社員です。きょうは平日ですので、仕事を休んでまいりました。時間が 2、3 分オーバーするかもしれませんが、大目に見ていただきたいと思います。

きょうは仙台でのやらせとは違って、皆さん素晴らしい意見ですごく感動しています。全国の原発立地地域の皆さんに今日の録画を見ていただきたいと強く思います。細野大臣、仙台ではどうも。

言いたいことは皆さんおっしゃっていただいたので、もうこれは終わりにしてですね、原子力規制委員会の人選の議論をしたほうがいいんじゃないかとも思っております。

どうして原子力村の方々が規制委員会になるのでしょうか？ 笑ってしまいます、本当に。しかし、せっかくですから、ない頭を絞って二日ぐらいかけて書いてきたので、政府のお偉い方も前に座っていらっしゃいますから、ちょっと緊張してしゃべれないと困るので、書いてきたやつを棒読みさせていただきます。

大飯原発再稼働の際、野田総理が「電力が足りない。国民の生活を守る」と言いました。さもエネルギー供給が切迫しているような説明でしたが、関電は、大飯の再稼働直後に火力発電所を止めました。8 基も止めました。電力供給を調整しておきながら、計画停電の脅しはまだやめません。どういうことでしょうか？

原子力村の方々の考えることは、われわれには到底理解できません。関電の経営陣も、原発を動かしたいのは「電力不足とは関係ない」とはっきり述べております。お願いです。電力足りないデマはたくさんですから、もうやめてください！ それでも節電が必要とあらば、テレビを消すように広報してください。ひどい思いをしてエアコンを消すより、1.7 倍も効果があるそうです。

ここ最近の猛暑でも電力使用率には余裕があります。昨日も 12% 程度、東北でですね。東京でも 26 日、35℃ と、夜間でも 25℃ 以上のときに 10% 余裕がありました。

省エネ住宅とか太陽光パネルの設置など必要ありません。蛍光灯を LED に替えてください。テレビを消してください。それだけで十分対応できます。前回、仙台で 1 番の方がおっしゃっていた大げさな節電デマや脅しは、もうやめてください！

今までの聴取会で、原発容認派の意見の根拠はどれも経済性です。しかし、話はそんな段階まで行っていません。今朝知りましたが、東電さんは液化天然ガスを対米販売価格の9倍で購入し、「火力の燃料費がかさむ」と言っているそうですね。それをどこかの大臣さんが、調べもせずに値上げを認める。政府ぐるみのブラック企業ですか！

アメリカ・ゼネラル・エレクトリックのジェフCEOが、「原子力発電について正当化するのは大変難しい。世界の多くの国で価格が安いガスによる発電に移行しつつある。ガスと風力か太陽光発電の組み合わせに多くの国が進んでいる」と言っています。

お願いします。火力発電が高いというデマはやめてください！

政府のでたらめはこの資料の5ページにもさらっと書いてあります。共通事項のところです。「原発事故の甚大な被害や地震国の現実を直視し、徹底した安全対策の強化によってリスクを最小化する」ということでしょうか？ これは。

誰もが知っているように、今の政府は今回の福島事故の被害はもちろん、地震国の現実も全く直視しておりません。政府は、福島の汚染のデータを隠蔽し、その実態を矮小化して、「風評被害」や「絆」という精神論で安全ピーアールにのみ力を入れてきました。

「頑張れ福島」と言われています。何を頑張るのでしょうか？ 事故をなかったことにして頑張れということですか？ さらに大飯原発の活断層の問題。地質学の専門家が危険性を訴えているのに、その声を無視して今も政治的に原発を動かしています。ようやく政府により活断層の調査が必要だと関電に指示されましたが、なぜ調査が終わるまで原発を止めないのでしょうか？

電力が足りないわけでもないのにです。これでも、事故の被害や地震国の現実を直視しているといえるでしょうか？

もう1つ、「使用済み核燃料や放射性廃棄物の発生を抑制することにより、将来世代への負担を減少させる」ということでしょうか？ これは。使用済み核燃料の発生を抑制するということは、原発を稼働させないということでしょうか？ それとも、再処理施設の稼働でしょうか？ 再処理施設は計画どおり稼働していますか？ 計画当初から今現在までの実績、これまでの予算をこの資料に明らかにできますか？ 巨額の税金を食いつぶして、とても表沙汰にできないほどのものすごい汚染を発生させているじゃないですか！ これからも原発を稼働させるということは、今までどおり研究費と汚染物質を垂れ流すことです。できもしない再処理に税金を使うということです。やめてください。

原発の反倫理性は、過疎地への押し付け、被ばく要員として使い捨てられる下請け労働者、その犠牲による恩恵は都会の人間が今まで味わってきました。このようなウソつきの事なかれ主義の政府に、原発の再稼働をどうして認められるのでしょうか。私は即刻廃炉を求めます！ 物事には順序があります。事故の後始末もできないのに、どうして再稼働なんですか!?

7月16日の「さようなら原発10万人集会」で大江健三郎さんが言いました。700万人を超える脱原発署名を藤村官房長官に提出した翌週に大飯原発再稼働が決まったことで、「私たちは侮辱の中にいます」と言いました。

このような国民の意見を聞いていただける会を開いていただいて大変感謝しておりますが、国民の声は本当に届くのでしょうか？ この7割以上、今日の会では10割、沖縄でも10割、原発依存度ゼロという意見があります。この民意は反映されるのでしょうか？

それとも次の事故が起きるまで国民は侮辱され続けるのでしょうか？ 私の意見は30年後に原発0%ではなく、原発の即刻廃炉を望みます。以上です。



### **「今、この時期にシナリオを討論すること自体を、私は矛盾を感じております」** 福島県田村市

こんにちは。私は福島県田村市で工務店を経営しております吉田正之と申します。本日は、よろしくお願いたします。私はゼロシナリオを選択いたします。ただ、今、この時期に、この場で、いろんな討論をするわけですが、シナリオを討論すること自体を、私は矛盾を感じております。その話をさせていただいて、シナリオを選択した理由を述べさせていただければと思っております。

まず、私も今非常に緊張しているんですが、この場に立つてつくづく感じますが、どれだけの一般の人がここで発言しよう、したいと思っているのでしょうか？ 気持ちはたくさん持っていると思うんですが、非常にこの場に出てくるのは勇気がいることで、私などもう頭の中が真っ白でございます。もっともっと、丁寧に進めていただきたいなとつくづく思っております。

私は、データや資料を持ち合わせておりません。説得力に欠けるかもしれません。ただ、普通の方々が思っていること、日常の仕事の中でお客さまが感じていられることを、私なりに発表させていただければなと思っております。

今、シナリオを選択する矛盾ということで、ネット申込みさせていただくときにも書いたんですが、一般常識として、何かの物事が起こったとき、また事件、事故が起こったときというのは、通常はそれをきちんと調査をして、対策をとって、初めて物事が前に勧められるのかなと思っております。それが本当に当たり前のことなんじゃないかなと思うんですが、今、現在、そういうことが行われているのでしょうか？ 福島第一原発について調査され、検証されているのでしょうか？

正直なところ、まだまだ解明しなきゃいけないことがたくさんあって、不安なことがたくさんあって、だからこそ、県外に避難している方々がたくさんいるという現状じゃないのでしょうか。それを無視しないでいただきたいと思っております。

また、今、幾つかの原発の中で、活断層の問題が非常に取り沙汰されておりますけども、そういったことが発覚して、それについての調査は、全原発について調査をしているのでしょうか？

それらを全部調査をして、データがそろって、それをこの場に包み隠さず公表をして、初めてこういう討論会の場じゃないかなと思います。今、ここで選択をしてしまうと、それだけが既成事実になって、前に進んでしまいますけども、実際は検証されていないことで分からないことがたくさんあるわけで、それはできないんじゃないのかなと感じております。

まだ、福島原発で何が起こったのか、何が原因だったのかということ自体、分かっていないんじゃないでしょうか。もう一度、徹底的に、当然福島原発のことについて検証し、他の原発も同じように検証し、今、取り沙汰されている活断層のことなども徹底的に検証し、データを開示して、それで初めて討論ができるような気がしておりますので、きょうの討論会も、私自身は矛盾を感じております。

三つの選択肢の中で、私自身はゼロを選んだわけですが、その理由というのは、もう単純明快だと思っております。福島の事故によって、原子力発電というものが何か起こると、人間の力ではもう制御できないものだというのが、もう、明らかに一人一人がみんな学んで経験したことじゃないのかなと思っております。

また、もう一つ、今、原発を稼働させたとしても、それらの使用済み核燃料をどうするかというのは、日本もそうですけれども、各国も実質的にはどうするか決定されていなく、行き先が決まっていない状態です。どうして負の遺産を未来に残さなきゃいけないのでしょうか！ その大きな問題を二つ考えただけで、選択肢は脱原発になります。

私たちは災害で、複雑な社会インフラが脆弱、簡単に駄目になってしまうことを学んだと思います。いろんな場所で、食料もそうですし、石油もそうですし、灯油もそうですし、非常に生活に困ったという実感があったと思います。

経済情勢や、社会情勢に大きな影響を受けないこと、われわれの生活に必要なエネルギーを地域で自給できること、地域の安全・安心に大きく貢献した、原発に依存しない生活を目指していきたいと考えます。

ただ、原発に依存しないで、住まいの質を上げることが可能なのか？ というのは、皆さん思うところですが、3.11を経験して、エネルギーの多消費の現代文明に、「今のままではいいんだろうか」という疑問を持つ人が増えているんだと思います。私もかなりのお客さまからご相談を受けます。

快適で豊かな生活は、エネルギーがあつてのことです。生活の質を上げて、なおかつエネルギーの消費を減らすというのは難問中の難問でした。今までは、たぶん難しかったのかもしれない。

エネルギーについては、産業界の皆さんは、非常に努力をしていただいて、今まで頑張っていたのだと思いますが、今だからこそ一層、改革をしていただき、未来ある日本の礎をつくって

ほしい。企業の皆さんにはそうお願いしたいと思います。

最後に、私ごとではありますけれども、これからは私たち家庭が挑戦のときだと思っております。家庭のエネルギーの暖房や冷房、給湯などは60%から70%を占めています。これらは低レベルな熱エネルギーです。暖房は20度ぐらいあれば十分で、冷房は外気よりも5度ぐらい低ければ、冷房がもう要らなくなります。お風呂の給湯は40度あれば快適な状態になるんだと思います。これらの低レベルな熱エネルギーは、自然エネルギーをダイレクトに建物に導入することで、それらは解決する問題になってくるのかと思います。

高度なエネルギー、通信とか、そういう部分については、電気に変換すればいいのかなと考えております。極論ではありますけれども、60%以上の部分を太陽の熱エネルギーをうまく利用することによって、今までの質を変えないで、節電をすることが可能だと思っております。現実にもそういうことがたくさんあります。ですから、この問題は国民一人一人の意識改革で、たぶん変わるんだと思っております。

脱原発とか、原発推進、非常に難しい問題ですけれども、ここで国が、政府が方向を決めたとしても、一人一人の意識が変わって、考え方が変わって、生活を少しずつ変えていけば、変わっていくのではないかなと感じております。以上です。



### **「原発から放射能が漏れた場合、現在の技術では放射能を制御することができない。その中にわれわれ福島県民は住むことになっております」 郡山市在住**

郡山在住の Ito と申します。会社員をしております。私も皆さんと同じように原発ゼロシナリオを推進したいと思います。理由は3つです。

まず放射能は、現在の技術では制御できない。

2つ目が事故後の福島での事故検証と、その対処方法が確立されていないにもかかわらず、原発をやはり動かすべきではない。

そして、こういう事故が起きたからこそ

3つ目、再生可能エネルギーを国策として、脱原発国家および再生可能エネルギーの先進国を目指すという国家方針の下に、世界に向けて明確に打ち出して、世界をリードしていくような、そういう国家になってほしいという願いがあります。

まず原発から放射能が漏れた場合、現在の技術では放射能を制御することができない。その中にわれわれ福島県民は住むことになっております。で、最近新聞報道などで、「子どもの尿検査からセシウムが検出される事例が出ている」というのはご存じでしょうか？ これに関して、国からまだ

特にまとまった表現というのは、自主的検査に委ねているため、その情報をまとめて公表も多分されていないと思うんですが、例えば健康診断は30キロ圏の避難区域の住人の方々および18歳以下の子ども36万人には限定して行っております。

ただ、しかもそこにも尿検査という項目は入ってないんです。尿検査は、尿からセシウムが検出されても絶対人体には影響がないということなんでしょうか？尿検査で子どもからセシウムが検出されている親は心配で、検出されてから一時的にまた避難をしたりだとか、そういうことを今繰り返しているのが現状です。

今後も将来にわたって、その検査を国としては実施していき、もしもの時の早期発見につながるためということで、検査を18歳未満の子どもに関してはずっと実施していくという方向でやっていますが、30キロ圏の避難区域よりも線量の高い、われわれの住んでいる福島市だとか郡山市、二本松、そういう地域に関してもしっかりと、18歳未満の子ども以外に関しても検査をするべきではないかというふうに思います。

そして、今、その高い線量の地域で住んでいる親たちが不安を抱えて生活している。そのためにどういうふうに除染をしていくのかということや数々「子どもを中心に考えて」という話がありましたが、それを真剣に考えていただきたいと思います。

それは、現在学校や公園、役所、駅などで、主に線量計をやっと設置していただいて、線量が随時分かるようになりました。ただ、私の住んでいる郡山市の近くの公園では1.0マイクロシーベルトある公園があります。そこで普通にお子さんが砂遊びなり、泥遊びをしています。

しかもその公園の横の側溝ですね、そちらのほうを測ったら、どなたかの発言もありましたけれども、100マイクロシーベルトあった。そこには12万ベクレルのセシウムが検出されたという調査結果も、あるところから聞きました。

なぜ、福島県のそういう側溝だとか子どもがちょっと手を付けるような、そういうところの検査をしっかりと公表してくれないのかなと思います。

また、全国でデモがこれだけ行っているにもかかわらず、正式な政府のコメントというのをあまり聞いたことがないんですね。ですからそれが、われわれ脱原発を掲げる福島県民に対しての不信感につながっていると私は思います。

大飯原発の再稼働に関してですけれども、再稼働はしたものの、防災基準に関しては、原子力規制委員会ができてから、その案に合わせて作成するということになっています。

ということは、われわれの福島県で起きたことの、避難をせざるを得なかったこの事例、教訓を活かせず、まだおおい町役場では、そこまでしっかりとした防災対策ができていないということです。

それをせずに原子力発電所を再稼働させたということは、今この時点で災害があった場合に、どのようにその地区 100 キロ圏の人たちは避難をしていいのか？ しかも役場の人たちは「S P E E D I の風による放射線の拡散予測も知らない」と言っていました。「まだ見ていない」と。

そういうことを、裏付けをしっかりとって、防災基準をしっかりと決めて再稼働するのがまず筋であって、ただ、やはりわれわれ福島県の問題が解決するまで、ちゃんとした原因、除染方法でしっかりとした、子どもが安心した生活ができる福島県になるまで、再稼働はするべきではないと思います。

時間もないのでこれぐらいに意見をさせていただきますが、隣の方も言うておりましたけれども、福島県として「脱原発」という方針を先日、正式に決定いたしました。ですから国としても先ほど言ったように、再生可能エネルギーで安全でクリーンな発電能力を高め、安心、安全な国、脱原発をしっかりと宣言して、まず再生可能エネルギーに賛同してくれるような企業を集めて、そういう方々とじっくり話し合うべきで、それから研究開発、そしてその原発の代替エネルギー、再生可能エネルギーをどのように設置していったって需要パーセンテージを上げていくのかというのを、プロジェクトとして話し合っていく機会というのをつくる必要があるんじゃないでしょうか？ ぜひ、脱原発というのをスローガンに日本国として挙げていただいて、福島県はクリーンエネルギーのモデルになる県として、今後日本をリードしていけたらいいなと思います。

以上で表明を終わります。



### 「再開の条件…原発なり発電所を正直困らしてしまえと、ドームの中に入れちゃう」 福島在住

福島在住のBabaと申します。今のお話で、ぜひともですね、中に入れて皆さんの意見を聞いていただきたいと、その思いを込めて、大臣お願いいたします。許可してください。え？ 駄目なんですか？ 今手を振ったんですけども、入れてあげていただきたい。これは福島の民意です。よろしくお願いいたします

**司会：**事務方、いかがですか？ 確かに空席は十分にあるように見えますけれども。

その間、話は、こちらの意見は述べさせていただきますので、どうぞ、中の空席に入れさせてあげてください。これが意見聴取の本来の筋じゃないでしょうか。

**司会：**事務方のほうで、今本当にこの間にちょっと協議してください。よろしく申し上げます。では、よろしく申し上げます。

はい。私は、これは 15%と書いたんですけども、実質は 15%は認めておりません。で、なぜ、政府のゼロ%、15、25 というパーセントで表すのか、正直申しまして、意味が分かりませんでした。

数字で表せるものなんでしょうか？

あと今後の対応の仕方とここに書いてあるものは、去年震災が起きた4月に、いろんな段階で、各中央のテレビ局、あと原子力保安院、県庁、市長にメールで意見なり、提言をさせていただいた中身です。

ただ、それに対しては一切テレビの話題にならないのか、なんか知りませんが、相手にされなかったというか、そんな内容です。きょう、この場を借りて、機会を与えられたので感謝申し上げて述べたいと思います。

福島の場合と、あと福島県外の再稼働についてのものが一緒になっています。今後の対応について、福島はゼロ%。いや、福島県内の再稼働は100%反対です。

それで、じゃあほかの15%未満はなぜかという、この前、大飯原発が再稼働を強引にされました。でも、それ以外にも、今、各電力会社はなんだかんだいいながら、再稼働に向けて進めています。

それをやる前に、全て動かすのではなく、動かすときの安全性を保障したうえでだったならば、何かはいいのではないかと、この意見を出させてもらっています。ただ、それを再稼働するための条件は、いくつか書いてあるとおりあります。まるっきりゼロだと、代替エネルギーがまだ確保できていません。そのために、今後、止めた場合に、各産業、工業それらがおくれてしまう。

今、努力して皆さん節電しながら、なんとかやりくりしている。でも、やはり電力量には限りがありますので、メガソーラーとか、今はいろいろ出ていますが、それだけでは補いきれない、賄いきれないということで、最低、各電力会社、1炉1基、6基あるのであれば、1基のみ。ただ、それも期間限定、条件付きでやるべきではないかということでございます。

再開の条件としましては、今回、福島で問題になった放射線の拡散。で、これに対する対応が何もされていない。かえって拡散しているのに、政府は隠しとおして安全だといいいながら、間違った指示で、その放射線の流れているところについて、いろんなものを起こしております。

そのために、原発なり発電所を正直囲んでしまえば、ドームの中に入れちゃう。昔の鉄腕アトムとかですと、昔のガチャガチャのような丸い中に、街が入っているような、建物が入っている、そのようなかたちで放射線を外に漏らさない。ただ、もしなんかあったときのためと、あと今後の科学技術の進行を妨げるわけにはいかないので、その出入り口に何か所かは、放射線の漏れのための技術をつくった建物なり、システムを設置しなくちゃならない。当然、そういうものが出てくる必要があるのではないかと思います。

あと、設備でモニターカメラとか、測定機器、これは、やはり二重三重に場所を変えて置かなくちゃならないのではないか。あと、非常用の調査用ロボット、無線、無人の観測用飛行機器、そう

いうものを準備しておかなくちゃならないのではないと。あと、管理センター、オフサイトセンターですか、そちらには専門家以外の、やはり民間からも監視員を常駐させ、一つでもなんかおかしい動き、隠しそうなものがあつたらば、情報公開に踏み切ると。そういう必要性も感じています。

あと周辺的高速道路は、ドームとかのトンネルで、ちょっと距離数が長いんですが、そこで物流の流れを止めないようにしないと、その区間が通行止めになって、何もできなくなります。そういうものを考えてほしいと。あと、住民の健康調査。これは、内部被ばく、心臓等に障害を持っている人、子どもたち。この人たちに対しても、やはり毎月なり、健康調査を行う必要があるのではないかと。

あと一番不安になっているのが、今、自然災害はなんとか出るんですが、まだ想定されていないテロ攻撃が起きた場合、特に飛行物体での攻撃、ミサイル、北朝鮮テポドン、あるいはあの、9.11のような飛行機での命中。昔のゼロ戦のあれじゃないですが、特攻隊じゃないですけども、そういうのが来た場合に、すぐ対応できるのか、安全なのか。迎撃態勢なり、そういうものができていないのではないかと。スカッドミサイルを撃つにしても、その手順の上下間の流れを待つ動きをとっていたらば、あっという間に終わりです。そのへんを踏まえて、きちんとしたものにしてほしい。

最後にちょっと時間がないので、大臣早く福島避難している子ども、老人の方たちを早く地元に戻してあげてください。

司会：静かにして下さい

放射線の漏れているような土地、そこは除染しても、もとなければ、放射線は出たままです。きちんと処理してください。以上です。



### **「自由に電気を選ぶための、選択肢を自分たちに与えてもらいたい。そのための発電・送電の完全な分離。これを求めたい」 渡利地区在住**

福島市渡利に住んでいます。Nonaka といいます。団体職員です。去年の夏、除染大変でした。

原発依存度についての三つの選択肢について意見を述べるということがこの聴取会の趣旨ですが、その趣旨そのものをちょっと否定するようなことなんですけれども、原発依存度というものは、政府が決めるべきものではないと思っています。

ただ、ただし、さらにいえば、反原発の人々が求める、原発廃止の国民投票。これは一見われわれの主張を直接反映させるような、良いやり方のように見えますけれども、国民投票というのは、49%の少数派の人々を、51%の多数派の人々が押しつぶす、最低最悪のやり方です。

どちらにしろ、これを無理やりやるようなことがあれば、尊王攘夷の幕末のように主義主張の異

なる者同士、利害が異なる一般市民同士がいがみがあって、最悪殺し合うような世の中になる恐れがある。自分の主張は絶対正しい。反対する者は悪だ、つぶしてしまえ。このままエスカレートしてしまえば、日本だっていずれは環境テロなどが起きてもおかしくはない。政府にしろ、国民投票にしろ、一方的に原発の割合を決めるべきではない。原発の割合は、自分たち、国民一人一人、消費者としての選択の結果によるべきだと思う。

具体的にいえば、電力の自由化。電力の自由化。自分たち一人一人が、何由来の電気を使うのかを選ぶ。原発由来の電気を使うのか。火力由来の電気を使うのか。環境エネルギー由来の電気を使うのか。自分たち一人一人、家庭1世帯1世帯が消費者として自由にエネルギーを選択する。原発の割合はその結果によるべきだ。

多くの消費者が環境エネルギー由来の電力を選択すれば、環境エネルギーの分野にどんどん企業が参入して、原発など不要だ。それぐらいの電力を生み出すかもしれない。それならそれで国民の選択だ。そのときは、政府も原発を廃止することを考えてもらいたい。

ただ、環境エネルギーには、どれぐらい普及するのかという疑問もあります。単価はやっぱり高い。電気料金の値上げを我慢して、どれぐらいの人々が選択してくれるだろうか。それに環境エネルギーで電力をどれぐらい生み出せるのか？ いわき沖の風力発電の話、生態系に影響を与える。磐梯の地熱発電、温泉観光業に影響を与える。

そういうふうに、いろいろ制限がかかって、いくら消費者が自分は環境エネルギーを使いたいといっても、発電する側がそれに応えられない可能性がある。

一方、原発。国民の信頼がないかぎり、駄目だ。根本的に核のゴミ、これはどこにも捨てられない。その問題は解決できていないわけだし、震災、津波で原発の安全神話なんて消し飛んだ。

原子カムラの電力会社、経済産業省の役人、原子力の学者連中、どいつもこいつも無能な連中ばかり。それがはっきりした。

原発の安全性を飛躍的に高める、核のゴミを途上国に捨てるとか、そういう駄目駄目な解決方法ではなくて、ちゃんと科学的に無害化したうえで処理できる。それらがクリアできないかぎり、原発というものは、日本の将来に欠かせないエネルギーと再評価される可能性は、かなり低いだろう。

原発か、環境エネルギーか、あるいはその他か。お互いの産業同士が競い合って、消費者の選択によって選ばれる。原発のシェアというものは、その結果によるべきだ。そして、消費者一人一人の選択の結果については、原発推進派も反対派も文句をいってはいけない。

国民一人一人も、自分が選んだ結果について重大な自己責任を持たなきゃならない。原発賛成にしる反対にしる、その選択をわれわれがするための、自由に電気を選ぶための、選択肢を自分たちに与えてもらいたい。まずはそのために、電力の自由化。そのための、発電・送電の完全な分離。これを野田総理には求めたいと思います。以上です。



## 「“命”と“電気”、これから生まれてくる“命”、どちらが大切ですか？ どう考えても“命”です」 双葉郡浪江町（福島市へ避難）

今回意見表明させていただきます、双葉郡浪江町から福島市に避難していますOkawaと申します。震災前は建設会社に勤務しておりました。どうぞよろしく申し上げます。シナリオ「環境に関する選択肢概要」を読みました。難しくてよく分かりませんでした。

シナリオ、シナリオ、18年後の先は思い描いたとおりにならないからです。なので私のエネルギーを考える上でのさまざまな問題点、改善、要望点をお話しさせていただきたいと思います。

1点目は、環境温暖化の問題です。昨年発生した震災により、福島第一発電所の事故が起こり原発の安全神話は無くなりました。原発はクリーンで安全な発電方式ではなく、汚染し危険な発電方式であるということが証明されました。

今回の事故で学んだことは、原子力災害は広範囲で長期にわたり影響があるということと、廃炉まで考えた電力コスト、賠償を含め多大な金額となり、国民の血税を削って支払うということです。あと、原子力発電で避難した方の尊い命も亡くなっているということです。

今現在、一部の原子力発電所を除くと火力発電に頼る発電を続けていますが、CO<sub>2</sub>の増加による温暖化を助長させる上、電気料の値上がりにつながっているということもあります。火力発電も災害に対して爆発炎上等のリスクはあります。

化石燃料の枯渇というのも重要な問題です。再生可能エネルギーは今現在、発電能力が乏しく、貧弱なエネルギーであるというのは間違いありません。地球温暖化対策だけを考えたエネルギーとなりますと、原子力は稼働させながら再生可能エネルギーの拡充・拡大と蓄電技術の向上をさせ、化石燃料による火力発電を抑えることとなります。

しかし、原子力発電は危険なエネルギーであるため、確実な安全対策・対応が確立され、地域住民の同意があり、初めて稼働させることが前提となります。

国際会議で鳩山元首相が、「2020年、温室効果ガス25%、原子力発電所24基分相当の削減」を発言していました。その当時はクリーンで安全な原子力発電による温室効果ガスの削減を考えて発言したと思います。しかし、アメリカ、中国など大国はそれにも参加せず、日本は規制を強めていくだけ。そのことで日本が原発に依存するエネルギー政策を選択してしまったことを政府は責任を感じてほしいのです。

2点目は、使用済み核燃料と福島県内の汚染物質の処理問題です。原発を再稼働すれば使用済み燃料は発生し、増え続けるごみを安定的に処理しなければならないのです。私は、最終処分場が解

決しなければ、2030年を待たずに全国の原子炉を停止してほしいくらいです。使用済み核燃料の処理問題は、国策として原子力を推進してきた政治の責任であり、エネルギー環境を国民に選択肢させるよりも先に、使用済み核燃料処理問題を確立されてからの選択肢だと思います。今回のシナリオでも「直接処理」とだけ記載されていました。政府はエネルギー選択肢を国民に選ばせたという既成事実をつくり、目の前の使用済み核燃料や汚染物質の責任を先延ばししているだけじゃいけないということを考えてください。

3点目は、エネルギーを規制する省庁、機関の問題です。今度、原子力規制庁を立ち上げ規制していくようですが、原子力規制庁の中がよく見えていません。また骨抜きにされ、所詮、責任の所在が分からないようなかたちだけの省庁にはならないでほしいのです。

そして残念なのが、各事故調の報告書が中途半端な形だったということです。福島第一発電所だけにスポットを当て調査・報告されていますが、福島第二原子力発電所も同じ沸騰水型の発電所です。地震、津波による被害調査をすることにより、原因究明や今後の事後活用にされると考えるからです。今現在も福島第二原子力発電所では事故処理作業をし、汚染水が漏れ出しているということなので、ぜひ調査・報告してほしいです。

シナリオ5ページ、核燃料の再処理は、15シナリオから、高価で危険なMOX燃料もあり得るとしています。これでは原発依存度を確実に下げるではなく、上げてしまうのではないかと感じています。9ページ、10ページのシミュレーションでは具体像としていますが、この内容は分かりづらいと思います。

今現在、一般家庭にパネル補助金が、何ワットで幾らまで国が補助して、それに対して今度はこういう各種をするという具体的な方法、蓄電方法にもっと具体的に突っ込んだ話、また休耕田や遺産分与、放棄地等、活用される土地を電気事業法や農地法の改正とか、縦割り行政をもっと横のつながりで改善して、やれることはもっとあるはずなのです。

温室効果ガスをお金で買ってくるぐらいなら、そちらにお金を回してほしいです。2020年、これからの18年に再生可能エネルギーおよび蓄電技術が向上し、拡大・拡充することを期待して、「2020年原発ゼロ」を選択します。各家庭の負担増は厳しいですが、厳しい選択をし、やれることを精いっぱい頑張っていくことが大事であり、目標に向かうことで次世代エネルギーの向上につながっていくことを期待します。

今、世界国々の再生可能エネルギーに方向転換している現在、再生可能エネルギー、蓄電技術は、日本が世界をリードしていける大きなチャンスでもあるのです。

「命」と「電気」、これから生まれてくる「命」、どちらが大切ですか？ どう考えても「命」です。この事故を契機に、今後のエネルギー政策について大きな良い転換期になることを望み、終わらせてもらいたいと思います。ご清聴ありがとうございました。



## 「法の番人たる裁判所までもが、いわゆる原発ムラによる圧力に屈したのです！」 郡山市

皆さん、こんにちは。郡山市の Inoue Toshio と申します。私は郡山市内の県営住宅に住んでおりますが、自分の自室の前が広場になっていまして、そこに大型の遊具が設置されています。その場所で測定してみますと、1時間当たり常時 0.8 マイクロシーベルト内外の放射線量を示します。

法規に定められた放射線管理区域の設定基準を1時間当たり線量に換算すると、単純計算で 0.6 マイクロシーベルトになります。

労働安全衛生法令に、「事業者は必要のあるもの以外の者を管理区域に立ち入らせてはならない」などと定められています。この広場は、本来なら部外者の立ち入りが厳しく禁止されるはずの放射線管理区域に相当する場所です。

ですが現実はどうでしょう？ 放射線管理区域の標識もフェンスもバリケードなども設置されず、団地住民の幼い子どもたちが自由に出入りして遊んでいます。

この団地の管理責任は福島県知事にあるはずですが、その県知事が任命した放射線健康リスク管理アドバイザー3名は、健康リスク回避を図らず、もっぱら放射線安全キャンペーンに奔走し、その代表格山下俊一氏は、ミスター100 ミリシーベルトと国際的に揶揄されるありさまであり、山下氏が指導する福島県立医科大学の県民健康調査は、県民に信用されておられません。

福島県にみる放射能被ばく対策の実態の奥には、国の基本的な姿勢があるはずですが、昨年3月の事故発生直後、アメリカ政府は自国民に原発事故現場から80km以内の地帯からの待避を指示しました。イギリス大使館は、羽田空港に香港行きチャーター便を用意して、自国民だけでなく、旧植民地である香港の市民まで国外退避させたそうです。

ひるがえって、わが国の対応はどうだったか？ 事故のさなか、SPEEDI情報さえも隠し、逃げ惑う被災民を無駄に被ばくさせたことは周知の事実です。

昨年11月内閣官房に低線量被ばくのリスク管理に関するワーキンググループが設置されました。これは国内外の科学的知見や、評価の整理、現場の課題の抽出を行う検討の場とされていますが、報告書や発表、概要などを読んでみると、低線量による健康被害を軽視するものが多く、また11月28日第5回会合に、海外から招かれた報告者は、原子力産業との共存を説くICRPの科学事務局長、クリストファー・クレメント氏、あるいはベラルーシのエートス（ETHOS）プロジェクトで知られるジャック・ロシヤール氏であり、政府の放射線被ばく対策は、健康リスクを回避するためのものではなく、これを隠ぺいし、経済的、社会的要因を重視する姿勢を見せています。

細野豪志原子力行政担当大臣をはじめ内閣は、国民の命と健康、なかんずくは、子どもたちと命と健康そして未来を守るといった全体の奉仕者としての公務員の本文を忘れ、倫理的な混迷に陥っ

ています。

昨年6月、郡山市内の小中学生たちが、法律で定める一般人の年間被ばく許容限度1ミリシーベルト以下の安全な場所での教育の実施を求める仮処分を、福島地方裁判所郡山支部に申し立てました。

ところが、野田佳彦内閣総理大臣が、なんの根拠も道理もなく、福島原発事故の収束を宣言したのと同じ、昨年12月16日。福島地裁の判事たちは、年間100ミリシーベルト未満の低線量被ばくによる健康への影響は実質的に確認されていないなどという、放射線安全プロパガンダを推認する無謀な論理でこれを却下しました。

法の番人たる裁判所までもが、いわゆる原発ムラによる圧力に屈したのです！ 目下、この通称、ふくしま集団疎開裁判は、仙台高等裁判所で抗告審が行われていますが、世界市民法廷など、市民による合法活動によって、世界の良識の注目を集めています。日本が法治国家であるか、子どもたちを守る社会であるか、世界が今福島を見つめております。

**司会：**ありがとうございました。

**発言者：**まだ。

**司会：**そうですかちょっとお時間が2分ほど超過しておりますので、じゃあ手短かにお願いします。また、もう1回後ほど発言機会がございますので。

**発言者：**じゃあ、もう1点ありますので、その次の機会にじっくりと述べます。お願いします。

**司会：**分かりました。ありがとうございます。



## **「じゃあ原子力は地球を汚さないのか？ といったら、全然ウソっぽかったです」 田村市**

田村市から来ました Imaizumi と申します。よろしく願いいたします。

前半の最後ということで、きょう今、上に並んでいらっしゃる皆さま方が、みなさん、ほとんどゼロということですのでごく安心してあります。同じ仲間だなと思っております。たぶん今、会場にいらっしゃる方もそうだと思いますけれども、これがたぶん福島の声だと思います。

そんな中で、やっぱ皆さんもおっしゃっていましたが、大飯原発の再稼働というのは、福島県民に対して、失礼だったんじゃないかなと思います。で、ただ、今回こういう、国民の意見をじかに近くで聴くという機会は本当にいいことだと思います。

逆に福島県に関しては、各市町村で皆さんだけではなくて、東北電力、各メーカー、それから研究者たちが、きちんとみんなの声を、もう、罵声を浴びせられると思いますけれども、聴くべきだと思います。そういう場がこれからあってもいいと思います。あるべきだと思いますね。そうしていかないと、政治も国も何も変わっていかないと思います。

今日は、皆さんが言いたいことをほとんど言ってくださったので、ちょっとエネルギーに関して言わせていただきますけれども、私もゼロシナリオです。私も生まれたときから、当たり前原子力の電力があったので、当たり前に使っていて、それがこんなに危険なものだとは、事故が起きるまで知りませんでした。で、事故が起こったときも、何が起きたのか分からず、何が体に悪いのか分からず、もう必死に調べました。

ことしの冬、2月ですね。たまたまちょっと、津波被害者の方の支援とともに、東京に行った時に、たまたま出会った映画なのですけれども、先ほどの10番の方は、「10万年の安全」とおっしゃいましたけれども、私は、「イエロー・ケーキ」ってご存知ですか？ 大臣。

じゃあ、後でパンフレットをお渡ししますので、ぜひ官僚の方たちと上映会をなさっていただきたいなと思いますけども、こちらの「イエロー・ケーキ クリーンなエネルギーという嘘」というタイトルなんですけれども、これは、ドイツのドキュメンタリー映画になります。

これは何か？ と言いますと、原子力の元になるウラン。ウランの採掘現場のドキュメンタリーになります。私も知らなかったのですけれども、原発のウランを精製するために、約1トンの鉱石物を採ります。1トンの鉱石物を精製して、やっとウランが採れるのが、ご飯茶わん約1杯分ぐらいなんですよ。

それで、大量の土砂と水が放射能で汚染されて、人目の付かないところに放置されている。それが、カナダ、アメリカ、オーストラリア、アフリカになります。この「イエロー・ケーキ」で見ただけのように、オーストラリアだったかな、日本人にウランを売らなくちゃいけないから、アボリジニの人に「どけ」と言っている映像もあるんです。それぐらい地元の人を、もともと、今回も福島はそうですけども、昔から住んでいたところをどかさされるのって、どんなにつらいか、嫌なことか、すごく分かります。

そういう中でできたエネルギー、まず精製のときから地球を汚しているエネルギー、全然クリーンではない原子力発電所。

それで、原発の発電をしているときに冷やすときに出た水。人体には影響はないと海に流していますけれども、それを流しているために、もしかしたら、この今の集中豪雨だったり、台風の流れがおかしかったり、あの原因というのは、結局海の温暖化が原因といわれていますよね。

その原因をつくっているのは、やっぱり人間の原子力とかそういうのも少しは関わっているのではないかなと、ちょっと思います。温かくなった放射能を浴びた原発を冷やすために使った水を海に流していて、何年前ですけれども、そんなに興味なかったんですけれども、たまたま海の貝を

研究している人の話を聞いたときに、「原発付近の貝がメス化している」というのをちらっと聞いたことはあります。

それに、「東北にしては珍しく熱帯魚がいる」というのは、「えー、ウソでしょう」とそのときは笑って聞いていましたけれども、いろいろ調べていくと、もしかすると東北の海に熱帯魚がいるというのは、その部分だけですけれども、「あ、本当だったのかな」と、なんとなく思いました。

そうやって見えないところをどんどん汚して行って、なおかつ精製のときに地球環境を汚し、電気を作っている時点でも海を汚し、そしてまた電気を使い終わった時点でも、ゴミがどうしようもなくなっている。

今、六ヶ所村を動かせば、クリプトン 85 が大気中に大量に出ます。大気汚染にもつながると思います。だから、どこが原子力発電がクリーンなエネルギーなのかとちょっと思います。

いかにもこのデータ、先ほど渡されました 3 つのデータの、各シナリオにおける原発の構成の 4 ページで、いかにも、ゼロシナリオを選ぶと、「火力発電が中心になって、化石燃料が使われて地球上に悪いですよ」というアピールがされています。アピールがされているように、私には見えます。これは違うと思います。これは違うと思います。

これは、もう各個人が本当に太陽エネルギーだったり、バイオマスだったりを使えば、うまく地球を活用していけると思います。それをきちんと説明しないで、いかにももう「火力発電になってしまったら、地球を汚すよ」「じゃあ原子力は地球を汚さないのか？」といったら、全然ウソっぱちでした。

ぜひ機会がありましたら、自主上映で「イエロー・ケーキ」をなさってみてください。本当に分かります。この採掘現場で仕事をしている人たちも、危ないものだとは知らずに働かされて被ばくしています。それも事実です。

こういうエネルギーを、今後、本当に日本で使っていったいいものなのかどうか？ こんな、福島県民がこんな思いをしたのなら、「逆に世界のリードを取っていただいて、真っ先にやめるべきではないでしょうか」ということを言いたいです。以上です。



**「大きな痛手を被った福島県に住む当事者だからこそ言える、脱原発ゼロシナリオが日本の希望の道であると断言いたします」 郡山市・市議会議員**

25 番です。Hebiisi Ikuko と申します。郡山市の市議会議員をしております。私は 3 月 11 日以降、大変な災害の中市内を駆け巡り、そしてまた原発事故以降、目に見えない恐怖にさらされ、自らも被災し被ばくしております。

政府が一番やらなければいけなかったことは、原発事故が起きた時に子どもたちの命をどう守っていくかということだと思いますが、福島県内においては、それが確実に実行されたとは言えません。まだ測定されない中、本当に危ない子どもたちをアメリカでは80キロのほうに避難させましたけれども、そういった手は、日本では打てませんでした。そこでたくさんの被ばくにさらされ、そして放射線の防護に対してもきちんとした情報が与えられなかった。無駄な被ばくを強いられたとっております。

では私の意見表明をいたします。私はゼロシナリオを求めます。再稼働は認めず、原発の即時廃炉の意見を表明いたします。原発はいりません！

3月11日、大震災による原発事故によって、福島県民は健康に生きる権利をことごとく奪われてしまいました。そして日本中に、世界中に放射能汚染を広げ、世界の人々に、子どもたちに大きな迷惑をかけた事実は日本人の一人として大変恥ずかしく、情けなく思っております。

最も懸念することは、感受性の強い子どもたちへの影響です。健康に悪影響を及ぼす恐れのある放射性物質の拡散は、保護者たちを大きな恐怖と不安に陥れました。そして放射性物質による環境汚染は、子どもたちが健やかに遊び、育ち、学ぶ環境をことごとく奪いました。

郡山市においては、教室にクーラーはまだ設置されておられません。この厳しい環境の中で我慢を強いられております。政府による正確な情報、安全な食品を提供されず、不要な内部被ばく、外部被ばくを受けたのです。多くの命、財産、かけがえのない美しいふるさとを奪われた苦悩を心の底から理解していただきたい。

特に原子力政策を推進してきた人々、政府、電力関係者の方々にです。年間100ミリシーベルトまで安全であるという政府関係者、学者の方々は、福島県から遠くにいないで、ぜひ福島県内に住み続けていただきたい！そして福島県民と共に、同じように低線量被ばくの中で飲食し、生活していただきたい。

原発放射性廃棄物は人類と共存できません。放射能の拡散は倫理上、許されないことです。ですから私は、原発や放射性廃棄物の海外輸出にも反対です。日本のみならず、世界中から原発をなくすこと、核の廃絶を強く求め、戦争のない平和な世界を築くことが私たち大人の使命であると考えます。

ゼロシナリオを求める理由。私は原子力政策への不信感を、どうしても払拭することができません。過去の政府の対応と電力会社の企業体質の問題。情報の隠蔽、事故の過小評価など正しい情報提供と情報公開がなされなかったことです。

また、地震、事故が起きた時、暴走を止めることができるのか疑問です。高い放射能数値の中、汚染水処理と、危険で過酷な作業を行う人が絶対必要ですが、果たしてそれがどのように確保されるのでしょうか？

原発事故は、経済損失は数十兆円という国家存亡に揺るがす規模です。国民への負担増を強いる原発は経済的にも合いません。危険な原発や作業は過疎地住民に交付金で押し付け、本当に安全なら都会に建設すべきです。地方と都会、国民を差別分断してはなりません。

原発は人権の問題でもあります。なぜ再稼働を急ぐのか、安全対策より結論ありきの電力会社温存の経済重視は理解できません。

2つ目、東京電力福島第一原子力発電所の甚大な事故の受け止め方、認識が甘過ぎます。そもそも4つのプレート上にある日本列島は、地学的に見ても活断層が多い地震国です。原発を稼働させること自体、極めて危険です。いつ3.11同様、またそれ以上の大地震が起きるか分かりません。

福島事故の経験から明らかのように、一度事故を起こせば、完全に収束されるまで長期間かかります。私が収束最後まで見届けることは極めて困難。完全収束まで40年を要するなら、60歳の人は100歳になってしまいます。

福島事故の責任を一体誰が取ったのでしょうか？ 将来世代への大きな負の遺産は絶対許されません！ 放射性廃棄物中間処理施設、最終処分地はいまだに示されておりません。原発に頼らないエネルギー政策への大転換に挑むことが重要です。

私は今年の1月末ですが、脱原発に戻ったドイツの方を訪問しております。省エネへの見込みは、省電力1割ではなく3割削減も可能です。地域分散型再生可能エネルギーの積極的導入、電力の自由化と発送電の分離など、システム改革をなぜ導入しないのでしょうか？ 管理に10万年必要な核燃料サイクル、再処理の余地を残してはいけません。

最後に毎週金曜日の夜、首相官邸前に集まっている数十万人もの国民の声を政府関係者は無視することはできません。「原発要らない、大飯原発再稼働反対」は、安全な生活と健康、エネルギーを求める国民の切実な声であり、願いです。

3.11以後、国民の意識と行動は大きく変化しています。政府もまた国民に信頼される組織へと大きく変化することが重要です。大きな痛手を被った福島県に住む当事者だからこそ言える、脱原発、ゼロシナリオが日本の希望の道であると断言いたします。放射能におびえることのない再生可能エネルギーで、持続可能な社会を実現していきましょう。よろしく願いいたします。



**「この事故の責任者たちは1日も早く起訴されて厳罰に処せられるべきだと思います」**  
須賀川市（原発から70km）福島原発告訴団

皆さん、こんにちは。Nakaji Ryoji と申します。私は原発から70キロぐらい離れた須賀川市の西部のほうに居住しておりまして、居住地域は今なお0.7マイクロシーベルト前後です。

また私は郡山市で働いておるんですけども、そこの建物の周辺はですね、1マイクロシーベルト前後、表面汚染サーベイメータで量ると、10万ベクレルとか50万ベクレルとかというホットスポットが多数存在しています。

福島県は東京から来られた方、見て分かるように、大変自然の美しいところで、緑の山河はそのままなわけですけども、その空の下では非常に厳しい状態が、ずっと続いているということを経験させていただきたいと思います。

私の友人で、森の案内人という、退職されてですね、子どもたちを自然に触れさせ親しませ学ばせる。そういうボランティア活動をされていた方がいらっしゃいましたけれども、この1年以上そういうこともできなくなりました。

また、私の母はずっと農業をしております、本当にそれだけが、おいしい作物を作ることだけを生きがいにしてずっと来たんですけども、しかし「作っても、孫やひ孫は食べてくれないんだべなあ」と、そう言いながらも畑を耕しています。

そういうふうに、皆さん悲しくて悔しい思いで生活をしています。もっともっとひどい状況に置かれている方がたくさんいるだろうと思います。

しかし、それなのに、原発が再稼働される。あるいは、きょうの会議のように、15%とか25%とかいう数字が出てくる。一体これはどういうことなんだろう!? と。私は本当に怒りを腹の中で膨らませざるを得ません。

私は福島原発告訴団というものに加わっております。皆さんもご存じのように、この事故を起こした東京電力の幹部や原子力村の方々、政府の方々、誰一人、責任を取っておりません。そればかりか、東電の幹部に至っては、退職金をもらった上に何と天下りまでしているというではありませんか!

私は、こういうふうな・・・この無責任体制を持続させて、「どんなことをやっても許される、そしてまた元に戻せばいいんだ」というふうな動きをずっと継続してきたのではないかと考えています。

私は原告団に加わって、是非ともこの事故の責任者たちが一日も早く起訴されて厳罰に処せられるべきだと思います。そうでない限り「何度でも何度でもこういうことが繰り返されるのではないかと私は強く思いますので、何とか頑張って、原告団、現在のところ1,324名ですけども、起訴を実現するべく奮闘したいと考えております。

もう1分前になりました。多くの方が触れられておりますので、簡単に私が、ゼロシナリオ、しかも2030年までではなくて、可及的速やかに原発を廃止すべきだということについて述べたいと思います。

一つは、今も言いましたけれども、「福島原発の事故の現実を直視すれば、それ以外の選択などあるのか！」ということです。こんなことになっていて、誰が「もっと稼働して社会の安全をかたち作る」なんていうことを言えるのか！ということです。

事故は収束していませんよね。廃炉まで40年以上かかると言われています。いや、40年では済まないかとも思いますね。ね。その間どんな事態があるかも分かりませんよ！我々はもっともっと遠くに逃げなければならないかもしれません。まず、この現実を直視すべきだと思うんです。

二つ目は、これも多くの方が述べられましたけども、処分方法が決まっていない使用済み核燃料、核廃棄物をこれ以上増やしてはならないということです。どこにも持っていきようがないでしょう！これは、原発、もう既に1万4,000トンぐらいたまっているといいますけれども、どこにも持っていきようがないです。これは本当に歴史的な過ちとして我々は総括するしかないと思います。

そしてまた、放出された放射性物質ですね。我々の身の回りにあるところがたくさんありますけども、これも処分、どこに持っていくのか、決まっています。

みんなうちの、家の庭に埋めたり、学校の校庭に埋めたり、公園に埋めたりしているんです。行き場がないんですね。こういうものを増やしてはならない！

その点で、原発を稼働すれば、その原発内に貯蔵しておかなければなりませんし、事故が起きれば私たちの生活の環境の周りに置いていくしかないんです。「こういうことをやってはいけない」これが二つ目です。

三つ目は、原発作業員の被ばくの問題です。原発、今、収束作業に当たってられる方3,000人ぐらいいらっしゃるということですが、本当にありがたい話です。

こういう人たちの被ばく量を本当に低くしていく、このことが今求められていると思います。ありとあらゆる技術をもって、安全措置を取るべきだと思います。ところが、鉛のカバーで線量を下げたりしているというではありませんか！全く許しがたいことです!!

そしてまた、この被ばく労働というものを少なくしていくためには、もはやこれ以上原発を稼働してはいけないということなんです。

この作業員の方たちとお話しする機会がありましたけども、この方たちが、その場で、ある人が「自分の息子にはそういう作業はさせたくないな」と言ったときに、「いや、ちょっと待ってください。それはやっぱり差別意識につながるんじゃないですか？もうちょっと工夫した表現で言ってください」と言ったことが私の印象に強く残っています。本当、そうだと思います。

誰かがやらなければならないことをやっている。そういう方たちがいるわけですから、この人たちの安全対策を十分になすことが今一番求められると思いますし、これ以上被ばくを増やさないためには、原発をなくしていく、ゼロにしていく以外方法はないというふうに思います。以上、私の

意見といたします。



### 「奪われたこの1年間を返してほしい、本当に心からそう思います」 伊達市在住

やっとまいりました。伊達市に住んでおります Goto と申します。本当にこの会場に来て、今の本当の正直な思いは4時間ちょっと、長かったです。この自分の順番が来るのが本当に長かったというのが正直な思いです。

本当に福島原発が起きたから多くの人に発言してほしいということで、本当にこの場を開いていただいた30人もの人数の方にこういった意見を話す場を、というところでは聞こえはいいかもしれませんが、やっぱりもっと地元に行って多くの方の話を聞いて欲しいというふうに思うのが私は率直な気持ちです。特にこの時間、もう7時近くなりますと、特にここで一番話したいと思うのは子を持つ親だと思えます。

私も今年中学生になった娘を持つ親です。この時間にこういうふうな場所でしゃべるというのは本当に困難だと思います。特に今日も30人のうち女性は9人ということで、世の中に半数は女性がいるはずなのに、3分の1にもならない女性しか発言する機会がありませんでした。

そういう部分では、この日本全体のこれからの社会を考えると、男女共同参画ということを政府も立派におっしゃっているかと思えますけれども、女性が本当にそういう意味では政策などの立案及び決定の場できちんと意思表示ができる場というのを多くの場面で持っていただきたいということが一番初めに申し上げたいと思います。

そういったものを政府としても1999年に「男女共同参画基本法」という立派な法律の中で、そのことをきちんとうたっているわけですから、そういう部分では、きちんと女性が発言できる場、そして本当に思いを語れる場、声を聞いてほしいという場を多く作っていただきたいということを先に申し上げたいと思います。

私も、皆さんが多くを語ってきましたけれども、ゼロシナリオを基本的には支持する立場で、私も早急にこの原発というのはなくしていただきたいという立場でお話をしたいと思えます。

今、私申し上げましたように、伊達市から来ました。伊達市というのは献上桃でも有名なように、人も泣いていますけれども、果物も泣いています。特に、私が本当にこの春に、本当に悲しかったのは柿の木です。柿の木って、緑とごつごつした原木が本当に私好きなんですけれども、この春には全部真っ白になったんですよ。

本当にそういう意味では、人も泣いているけれども、食物も自然も泣いているというのが、この原発事故で侵された私たちの福島の実状ではなかったでしょうか。

そういった中で、本当にこの昨年 12 月 16 日に野田総理が出した収束宣言というものは怒りに増して勝るものは何ものでもないと思っています。

私は子を持つ親として、本当に娘は今年中学生に上がりましたがけれども、去年 1 年間、原発事故以来、本当に一番楽しみにしていた 6 年生という時間を返してほしいと思います。6 年に上がった瞬間から、外で遊ぶこと、それから友達と色々な思い出を作ること、奪われたこの 1 年間を返してほしい、本当に心からそう思います。

この収束宣言の中では、本当に内部を正確に把握できないということは皆さんが本当におっしゃっていることであると思いますし、本当に今の状況というのは原発事故というのは津波だけが原因だったのか、それとも地震の影響は本当になかったのか？ということとは分からない状況というのは本当におかしいと思います。

いまだに内部の映像を隠そうとしている東電、いつまでも隠し続けるというスタンスが私は許せません。

それから、名古屋で開催された意見聴取会の話も先ほどからされています。「原発事故で亡くなった方はいない、身体上及ぼす影響はない」といった発言のことも先ほどから皆さんたくさんお話しされていると思います。

ことし春にNHKで、「1人で移動することができず、避難できずにそのまま餓死した」という報道がされたときに、本当に私はショックを受けました。その人は本当に原発事故の被害者ではなかったのでしょうか？ということであの映像を見るだけで私たちはすべてを知っているっていうことを改めて言いたいと思います。

それから、将来への展望を失い自殺をした農家や自営業者の方も本当に被害者ではないのでしょうか？ SPEEDI の公開の遅れを含めて、さまざまな情報や事実を本当に国や東電がひた隠しにひた隠しにしながら、少しずつ少しずつ後出しジャンケンのように出してきていることを、「私たちが安心を実感する」ということはこの原発事故では本当に言えないというのが福島の現状だと思います。

4号機の使用済み核燃料の抜き取り作業がこれから始まろうとしている中で、この燃料の回収についても、皆さんがたくさん申し上げておられると思いますがけれども、本当に溶け出した燃料を取り出せても、本当にこれを「地下深くに埋めるほかには保管方法がない」というのが今の状況ではないのでしょうか？

地中に埋めて数億年で半減期を迎えるのを待つ以外に、本当に次の世代に負の遺産を残すという原発は私は要りません。

特に、この原発事故の最終処理それからこの放射能汚染で、30年、40年とかかる負担を子どもたちに残すということの責任をどのように考えていくのか？ 彼ら彼女らが選んだ未来では決してあ

りません！

私たち大人が作り出すこれからの未来を、子どもたちが安心して手を取って生きていける社会にするために、本当に今このエネルギー・環境の選択というのが問われているんだと思います。

過去は本当に戻ってきません。娘の6年生の生活はもう戻ってこないんです。こういった思いを、本当に全国の子どもたちにこういう思いをさせていいのでしょうか？

もう一つ、再生可能エネルギーの中で、先ほどから火力電力の話もされていますけれども、化石エネルギーにも限りがあると言われてはいますが、ウランだって鉱物じゃないですか！ これだって限りがあると思うんです。これから原発維持をしようとするのであれば、このウランだって限りがあるのに、いつかなくなるウランを待って原発を維持していくということそのものがおかしいと私は考えます。

これからの生活についても、私たちの生活も我慢を強いるだけではなくて、いろんな規制のあり方や24時間型の社会の見直しなど、私たちの暮らし方、環境すべての産業のあり方を見直す中でエネルギーのあり方というのは考えることができると思います。

人に優しく、地球に優しく生きることが、次の世代に胸を張って手を渡すということが、私たちの大人の責任と権利だと思いますので、そこを最後に述べさせてもらいまして終わりにしたいと思います。



## 「私がですね、健康管理の問題について9月からは政府の側の責任者になります」

細野大臣結びの言葉／福島県民の意見を聴く会（書き出し・完）

まず、えー、福島県民の皆さんに政府を代表して、改めまして心よりお詫びを申し上げます。ほんとに申し訳ございませんでした。

**会場の声：**ナニをお詫びすんだよ！

今、あの、30人の方からお話を伺いまして、えー、昨年原発の事故が福島県民の皆さんの生活を奪ったこと、そして、亡くなった方、命を奪ったこと、その責任をですね、改めてほんとに痛感を、あの、いたしました。

あの、お話を伺ってですね、あのそうしたものを、えー、取り戻すことは、もう極めて、あの、困難だと思います。え、ただ、その中であって、あの今もですね、健康不安を抱えながら、えー生活をしておられる方がいらっしゃいます。

あのぉ～、まだまだ政府の対応が至らない点たくさんございます。ただその中で、あの私がです

ね、健康管理の問題について、9月からは政府の側の責任者になりますので、きょう伺ったお話は絶対に忘れることなく、全力を尽くしていくことをですね、お約束を申し上げたいというふうに思っています。

え、賠償の問題や住宅の問題や、また除染の問題など多くのご指摘がございました。えー私が政府の代表で、こうしてしゃべらせていただいておりますが、今日は各省から責任者が来ております。

えー、全員ですね、今日は、各省から責任者が来るようにということで、しっかりとメモを取りながら真剣に、あの、聞かせていただきました。そのことはですね、これは私は非常に大きな、えー、事であったと、そのように思っております。

多くの皆さんからお話がございました。えー、東京電力管内の、えー生活をしている、えーそういう、あの、我々がですね、えー福島に負担を押しつけてしまっていること、なさらにいうならば、今、あの、不安を抱えながら、えー生活をされている実情がですね、東京に住んでいる、えー我々に分かるのか？ ということ。極めて倫理的なですね、そしてあの、もう本当に正当な、え、皆さんのお話だろうというふうに感じました。

あの、その矛盾をですね、今すぐに解決することはできませんけれども、あの～、本当に今日、皆さんから、あの、お話を伺ってですね、その福島の皆さんにいかに寄り添うことができるか、どうすれば皆さんのお気持ちを本当に受け止めることができるのか、今日はですね、改めて、え、その、あの、スタートに、改めてしなければならないというふに感じております。

今日は皆さんにですね、エネルギーの問題について、政府としての方向性をお話することは、えー、今意見聴取会を行っている最中でございますので、えーそのことはできません。

ただ、あの今日、あの改めて皆さんからお話を伺ってですね、一つ、えー、「絶対にやらなければならない」と思ったことがございます。

それはですね、えー、再生可能エネルギーを国家プロジェクトとしてですね、しっかりとえーまっすぐ育てていく。これまで原子力発電にですね、国は多くの確かに力を投じ、金を掛けてまいりました。え、それをですね、上回るそれぐらいの力を入れてですね、そういう力を入れて、再生可能エネルギーをこれから育てていかなければならないというふうに改めて感じました。

はい、そのことはお約束申し上げます。そして、その再生可能エネルギーを育てていく場所といたしまして、私はですね、わたくしは今日改めて多くの皆さんから、「この福島を再生可能エネルギーの拠点にしようではないか」というですね、本当に、あの、前向きなご提案をいただいたことをですね、絶対に忘れません。

で、福島は、あのわたくしは、あの本当にですね、素晴らしい可能性に富んだ場所だというふうに思っています。今それが大きく傷ついていることは、ま、政府の、これはですね、本当に責任であります。

あの、これから会津、そして中通り、そして浜通り、それぞれにエネルギーについてのさまざまですね、取り組みを地元でしていただいています。そうした皆さんの取り組みをですね、政府として全力でバックアップして、それが少しでもですね、福島の再生につながるよう努力をすることを約束を、あのさせていただきます。

私は野田政権の閣僚でございますが、福島の問題というのは野田政権かどうかとか、民主党かどうかと、そういう、私は問題をはるかに超えた重大な問題であると思っています。政治に携わる人間といたしまして、あの、福島とできる限り、本当にあの、皆さんとですね一緒にやれることが何かということ、政治家である限りこれからも追求をして歩んで参りたいというふうに思っております。

### 会場の声：(多数)

今日は、あの本当にですね、あの、30名という方に、あの本当に大変なご、ご準備をしていただいて、ご発言をいただきました。あの、心より感謝を申し上げます。それと同時に、あの、最後までこうして、あの、会に参加をしていただいた皆さんにも、えー、感謝を申し上げます。

えー、今お話をされている方々、あの本来は全ての皆さんからお話を、あの聞くべきところでもありますけれども、あのー、これは、あの、もう大変申し訳がございませんけれども、えー、時間の制約があって、アンケートという形になることをですね、お詫びを、えー、申し上げたいというふうに思います。

えー、4時間を超える、時間ではありましたが、私は福島の皆さんの思いを考えれば、短すぎるぐらいの、あの、時間であったというふうに思っています。

あの、本当にあの、今日、貴重な時間をいただいたことに感謝を申し上げ、そして。あの、この会議を開いていただいた、ご協力いただいたこと、皆さんのご発言、このことだけはですね、決して忘れずに、これからの、あのー、日本のエネルギー政策を考えていくことをお約束申し上げます、えー、私の、あのー、結びの、えー、挨拶とさせていただきますと思います。

本日は本当にありがとうございました。

<みんな楽しく Happy♡がいい♪>さんのブログより全文引用

<http://kiikochan.blog136.fc2.com/>